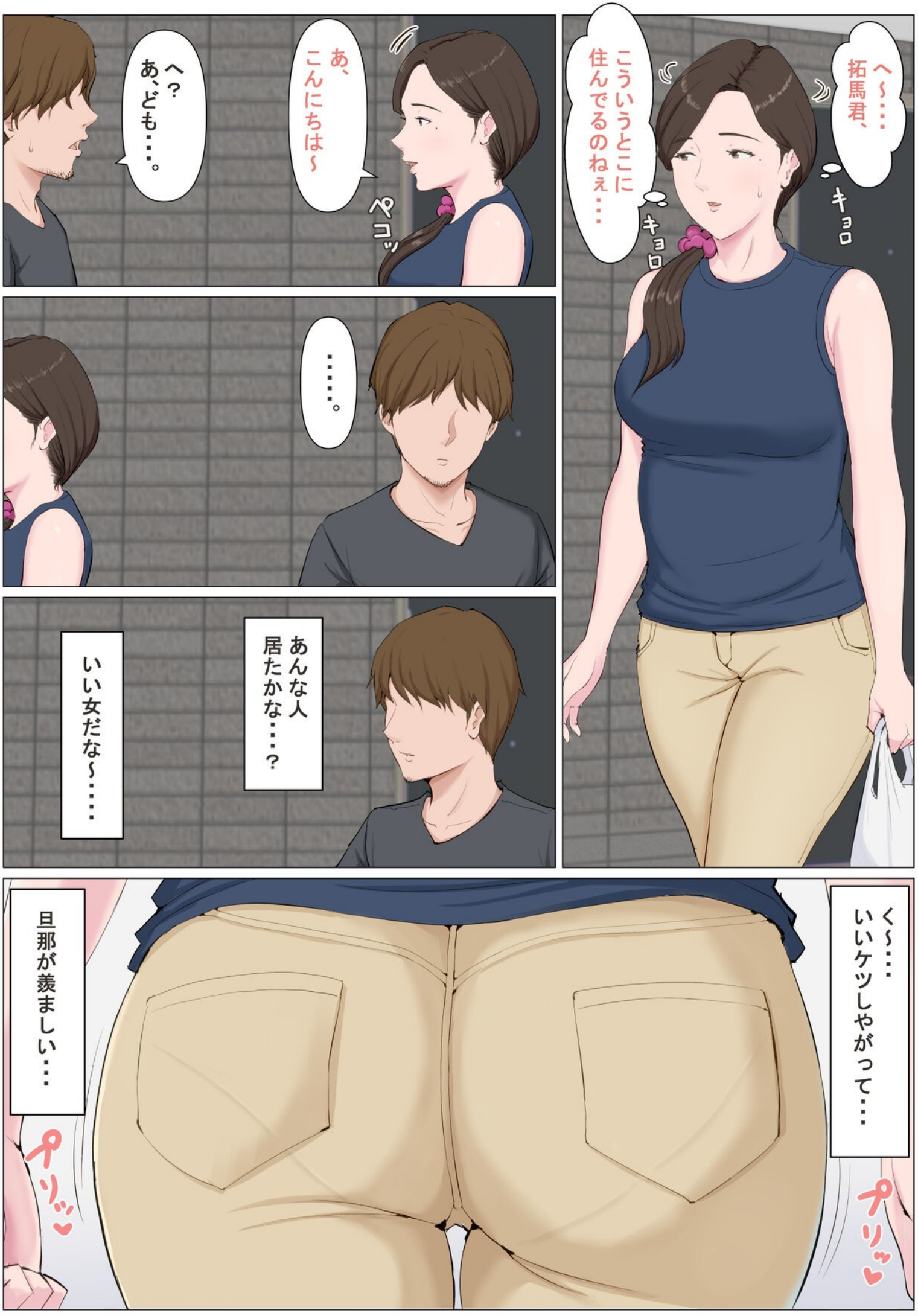

母に似たひと
～後編～
ほーすてぃる


私達は構わないんだけど…
コトッ
拓馬君が気を使うわよねぇ…
よいしょ…と
そうですねさすがに…
学校が夏休みに入るのと時を同じくして、
夫が一時的に帰国する事が決まり、
一緒に夕食をとる事が難しくなっていた…
え～それじゃあ拓馬君またコンビニ弁当になっちゃうじゃん！
ま、まぁ…多少は作れるから…
例えば…？
目玉焼きとか…
ダメだこりゃ!!


あっ…！
じゃあさ…
ママが拓馬君の家に作りに行ってあげればいいんだよ。
ええっ…!?
そんなっ…！
そ、そんなの…
拓馬君も困るわよねぇ…？
お家に行くなんて…
可能なら是非お願いしますっ!!
キラ
キラ
えっえ～…
ガシッ
ちょっと考えさせて…
…う～んでもそうね…
確かに拓馬君の食生活も心配だし…
毎日は無理だけど、週に2、3日なら…
ありがとうございますっ!!
あ～あ文化祭の準備なければ私も手伝いに行くのに～
あ～ら普段から手伝ってくれてもいいんですけど…？
……。


ミーン
ミーン
え～と・・・
たぶんこの辺なんだけど・・・
コッ
コッ
あっ・・・！
ここだわ・・・
ちょっと迷って遅くなっちゃった・・・。
拓馬君お腹空かせてなきゃいいけど・・・
コッ
コッ


へ～…
拓馬君、
キョロ
こういうとこに
住んでるのねぇ…
キョロ
あ、
こんにちは～
ペコッ
へ？
あ、ども…。
……。
あんな人
居たかな…？
いい女だな～……
く～…
いいケツしやがって…
プリッ
旦那が羨ましい…
プリッ


ピンポーン
サッ
サッ
……。
あっ・・
拓馬くん。
ちょっと
迷っちゃっ・・
ガチャッ
キャッ・・!!
ちょっ・・・・!?
!?
グイッ
拓馬くんっ・・・!?
バタンッ


んんっ…!!
!?
フー
ちゅっ
ガバッ!
ギュッ
ドサッ
んっ…!
ちゅっ
んんっ…!!
ちゅぱ
んっ…♥
もぞ
もぞ
もぞ
んっ…♥

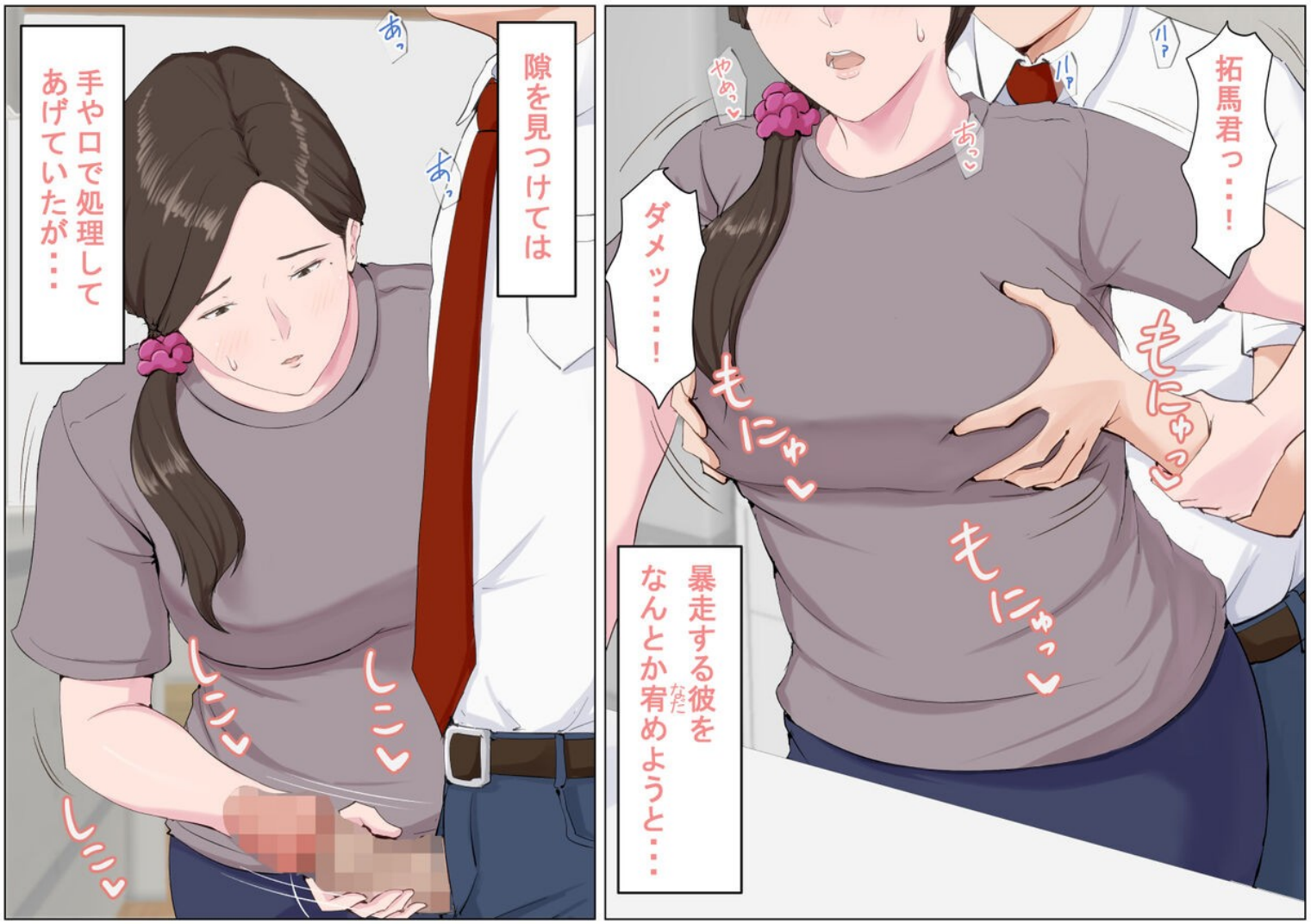

落ちついて…？ね…？
ご、ごめんなさい…
でもっ…！
ハァ
ハァ
はぁ
はぁ
ちょっ…た、拓馬君っ…！
ハァ
ハァ
はぁ
拓馬君っ…！
ダメっ…！
プリンッ
グイ
グイ
グイ
ずっと…
あっ…！
グイッ
ユサッ
ユサッ
モゾ
モゾ
ずっと我慢してたからっ…！
あの日…
ちゅ
ダメ
ちゅぱ
あっ


あの日拓馬君と・・・
一線を超えてしまってから・・・
ビクッ
ドクッ
ドクンッ
あっ
あっ


片付け手伝います。
あら、ありがと。


拓馬君は未来(みく)が居てもお構いなしに
ママ～どしたの？
ん、ん～ん何でもない・・・
モゾッ
モゾッ
モゾッ
私の肉体(からだ)を触るようになった・・・

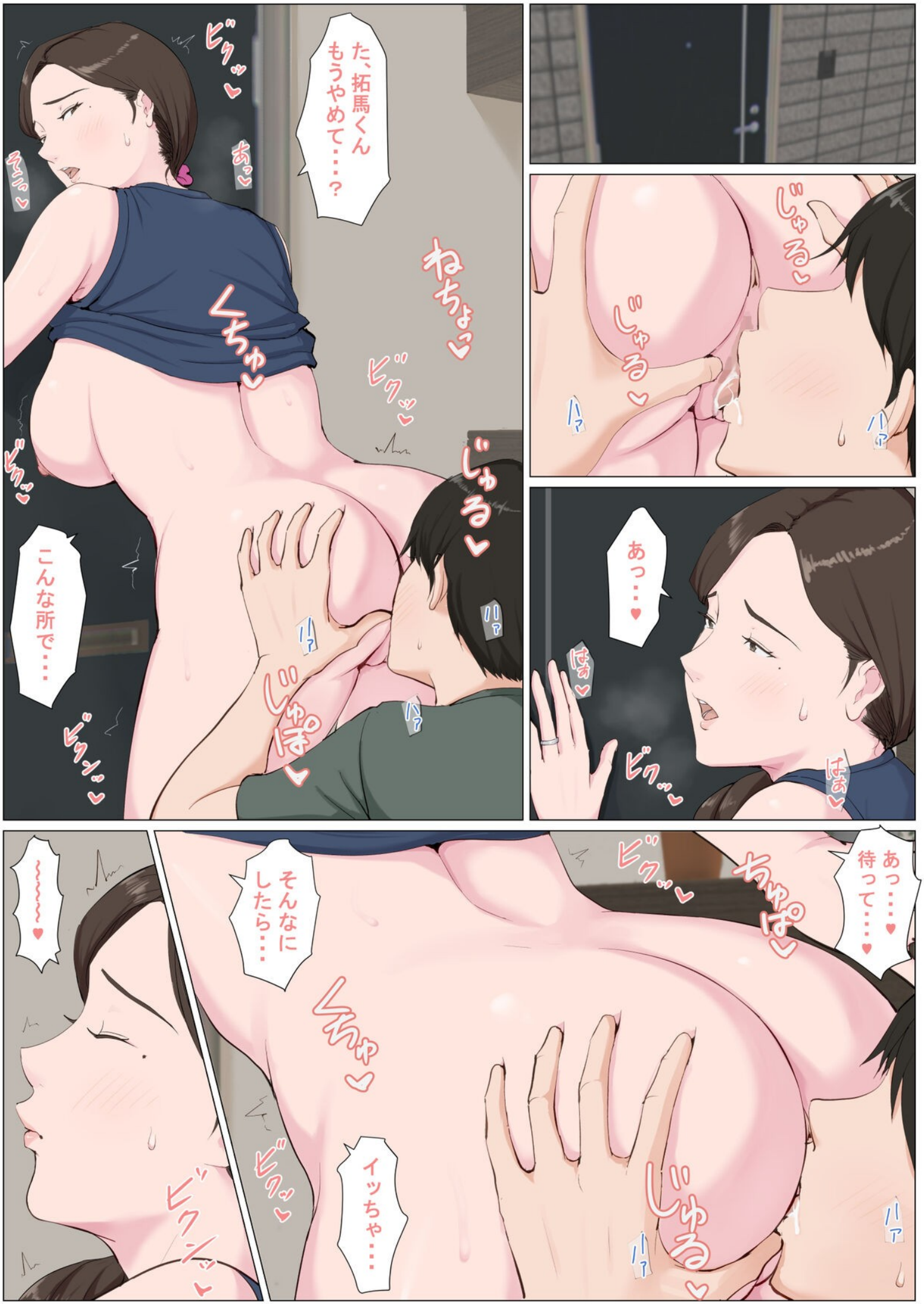

・・・・
ビクッ！
ひゃっ・・・!?


拓馬君っ…！
ハ？
ハァ
やめっ
あっ
もにゅっ
ダメッ…！
もにゅっ
もにゅっ
暴走する彼をなんとか宥めようと…

隙を見つけては
手や口で処理してあげていたが…
あっ
あっ
しこっ
しこっ
しこっ


性行為（セックス）を知ってしまった彼にとっては…
んっ…！
んっ…
ビュッ
ビュ～～ッ
ビュルッ
焼け石に水で…

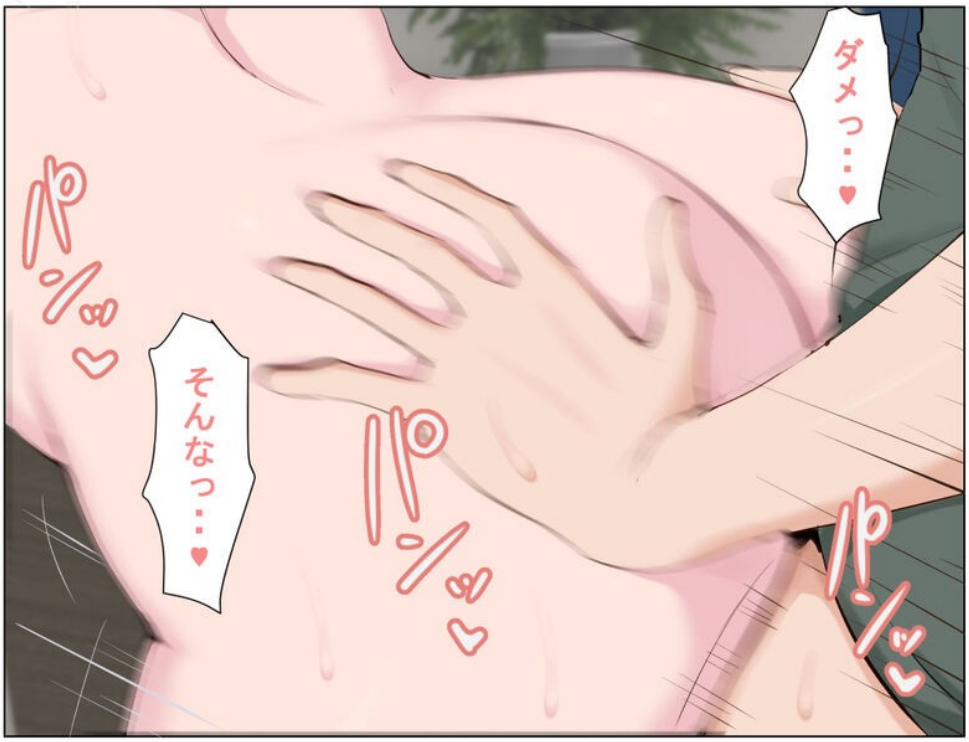

欲求不満を募らせただけなのかも知れない…。
あっ…
ビュッ
ビュッ
でるっ…！


た、拓馬くん
もうやめて…？
ビクッ♡
あっ♡
そこっ♡
くちゅ♡
ねちょ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
じゅる♡
こんな所で…
ビクンッ♡
ハァ
じゅぽ♡
じゅる♡
じゅる♡
ハァ
ハァ
あっ…♥
はぁ♡
ビクッ♡
はぁ♡
あっ…♥
待って…♥
ビクッ♡
ちゅぽ♡
そんなにしたら…
くちゅ♡
ビクッ♡
イッちゃ…
じゅる♡
ハァ
ハァ
～～～♥
ビクンッ♡


あっ…♥
ビクッ♥
はぁ…♥
ビクンッ♥
ゴクリ…
……。
ムラッ…
詩織さん…俺もう…
ギン
ギン
ま、待って！ホントにするの…？
詩織さんもこうなるのわかってて…
来てくれたんですよね…？
ハァ
ハァ
そ、それは…
はぁ…♥
はぁ…♥
まったく予期していなかったといえば…
はぁ…♥
……。
はぁ…♥
嘘になる…
避妊具（コンドーム）たくさん買ってきましたからっ…！
にゅぷ…♥
そ、そういう事じゃなくて…！
ぬぷぷ…♥
ちょっ…！

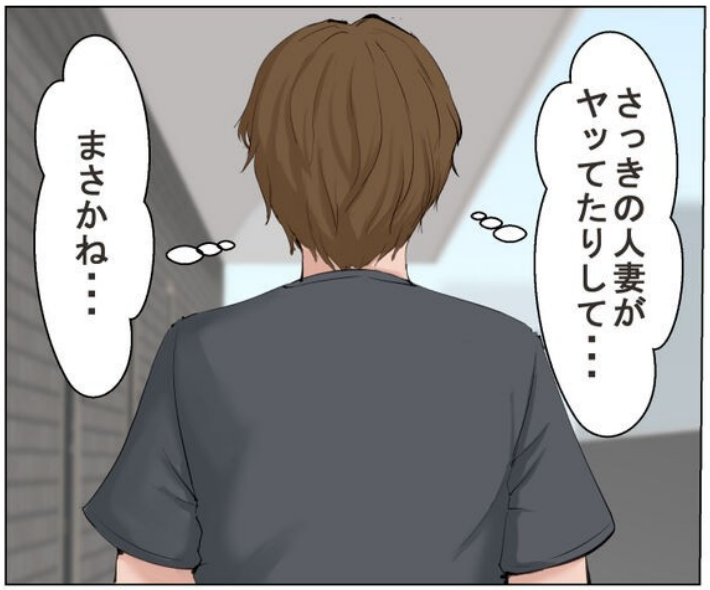

ガタッ
た、拓馬君っ…！
待って…
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
いきなりっ…
ガタッ
パンッ
パンッ


ああっ…♥


ダメっ…♥
そんなっ…♥
パンッ
パンッ
パンッ


ペタン
ペタン
!?
あっ…!
ゴム越しでもっ…
すごっ…!
ハァ
ハァ
ハァ
あっ
やぁ
ガタッ
パンッ
ブルンッ♥
やあっ…♥
パンッ
パンッ
パンッ
た、拓馬君っ…!
外っ…
ガタッ
ガタッ
あっ
人がっ…!
拓馬君っ…!
ハァ
ハァ
ハァ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
あっ
ガタッ
あっ…♥
ダメッ
ガタッ
やめっ…!


ガタッ
ガタッ
ガタッ
……っ♥
……？
ペタ
ペタ


さっきの人妻がヤッてたりして…
まさかね…

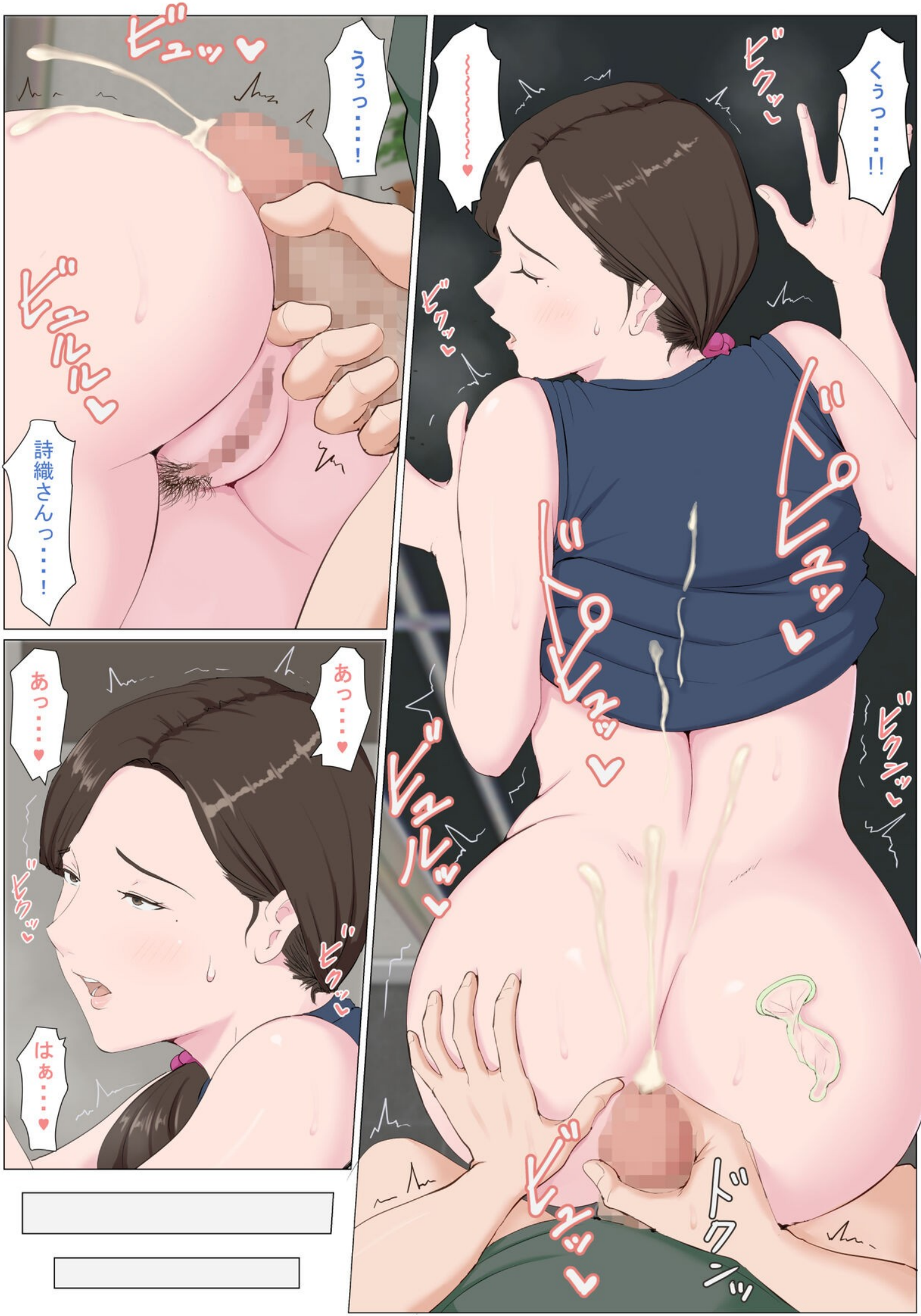

エッチしてるの…
バレちゃったかも…
いやあっ…♥
ハァ
ハァ
あっ
あっ
パンッ
パンッ
パンッ


んっ…♥
んっ…♥
ハァ
ハァ
ハァ
んっ
んっ
パンッ
パンッ
ブルンッ
ブルンッ
パンッ
パンッ
んんっ…♥
パンッ
パンッ


拓馬くんがっ・・
止めてくれないからっ・・・
止められないよっ・・・！
こんなエロい肉体（からだ）っ・・
目の前にしてっ・・・！
このっ・・・！
このっ・・・!!
ああっ・・・♥
やめっ・・・♥
あっ
ハァ
パンッ
ガンッ
ブルンッ


あっ…！
ハッ
ハッ
ハッ
イキそっ…！
あっ…!!
あっ
あっ
拓真くん
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
ブルッ
射精すよっ…!!


詩織さんのっ…
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
このおっきなお尻にっ…!!


ビュッ♥
うぅっ…！
ビュルル♥
詩織さんっ…！
くぅっ…!!
ビクッ
〜〜〜〜♥
ビクッ
ビュルル♥
ビュルル♥
ビュルル♥
ビクッ
ビュルル♥
ドクッ
あっ…♥
あっ…♥
ビクッ
ビクッ
はぁ…♥


本来の目的であったはずの食事は・・・
簡単な物で済まされて・・・


その後・・・

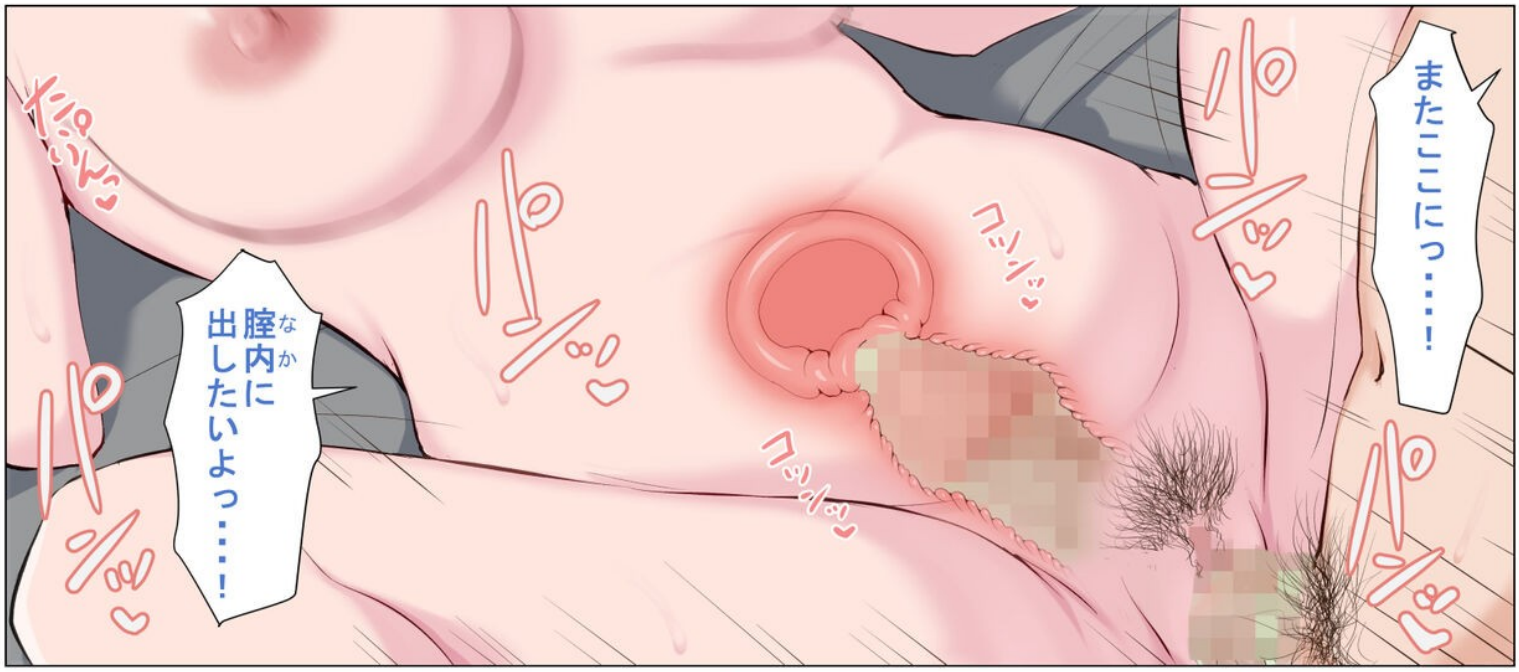

すぐに彼の部屋へ・・・
ダメっ！手で隠さないで！
グイッ！
そんな・・・恥ずかしいわ・・・
詩織さんが・・・
俺のベッドで裸に・・・
カ～～・・・
・・・・・。
拓馬君は私の肉体（からだ）をじっくり観察すると・・・
もじゃ
もじゃ
ハァ？
ハァ？
ああっ・・・すごい・・・！
ゾクゾクッ


何かを確かめるように・・・
匂いの濃い箇所を重点的に・・・
肉体の隅々にまで・・・
私は少女のように恥じらった・・・。
その舌を這わせ・・・

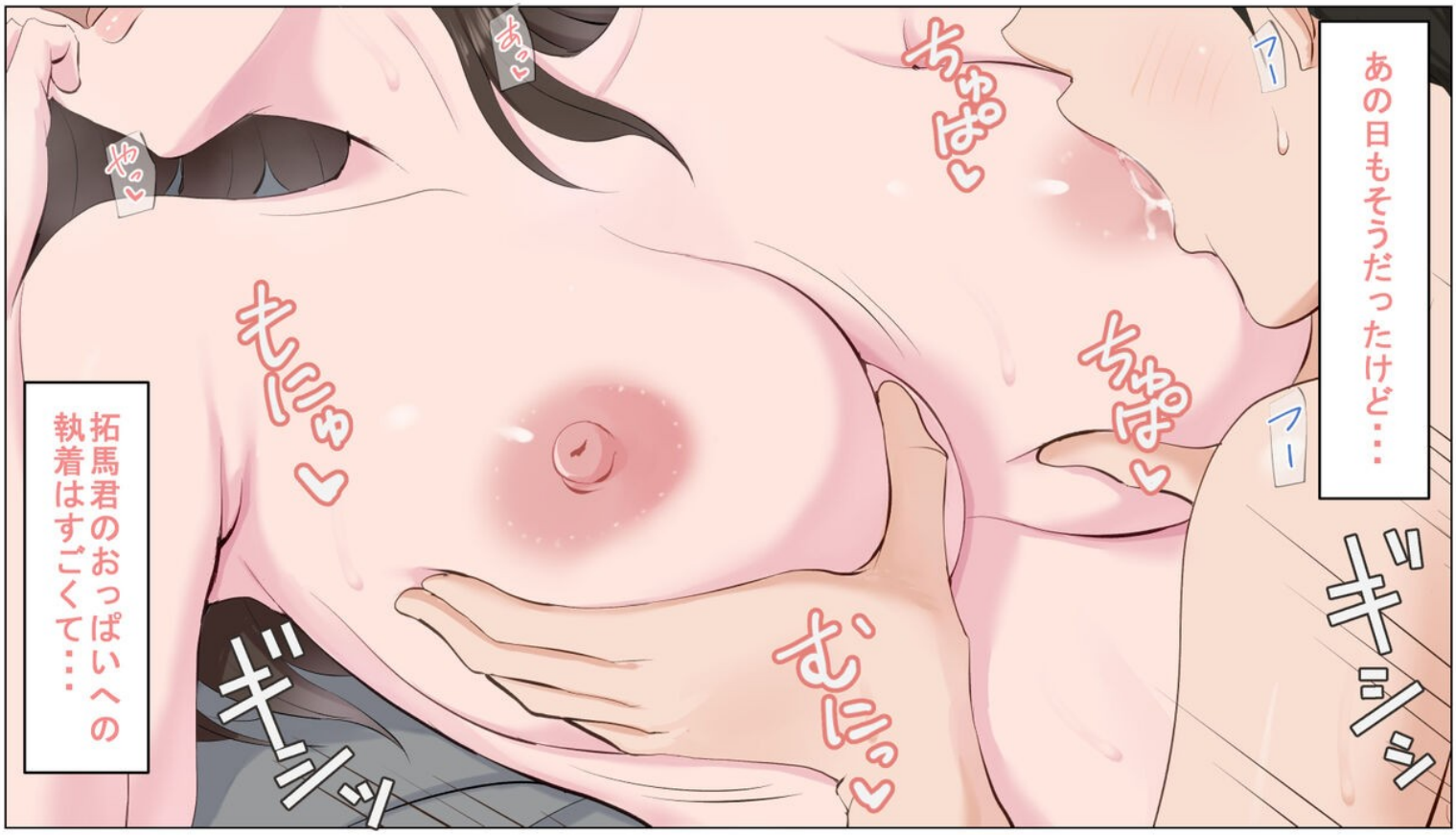

あっ…詩織さん…
もう挿れたいよ…
ちゅぱ
ちゅぱ
ちゅぱ
んっ…♥
あっ…♥
ぬぷっ…
ぷぽっ
ちゅぽ
んっ
あっ…♥
拓馬君っ…♥
焦らないでっ…♥
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
たぷんっ
たぷんっ
あっ
やぁ


あぁっ…♥
すごいっ…♥
2回目なのに
すごく硬いっ…♥
あっ
あっ
たぷんっ
たぷんっ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
あっ…♥
奥っ…♥
突いちゃ
ダメぇ…♥
ギシッ
ギシッ
あっ
やっ
ダメッ
もにゅ
もにゅ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ


ああっ…詩織さんっ…！
パンッ♡
好きだよっ…！
詩織さんっ…！
あっ♡
ハァ
ギシッ

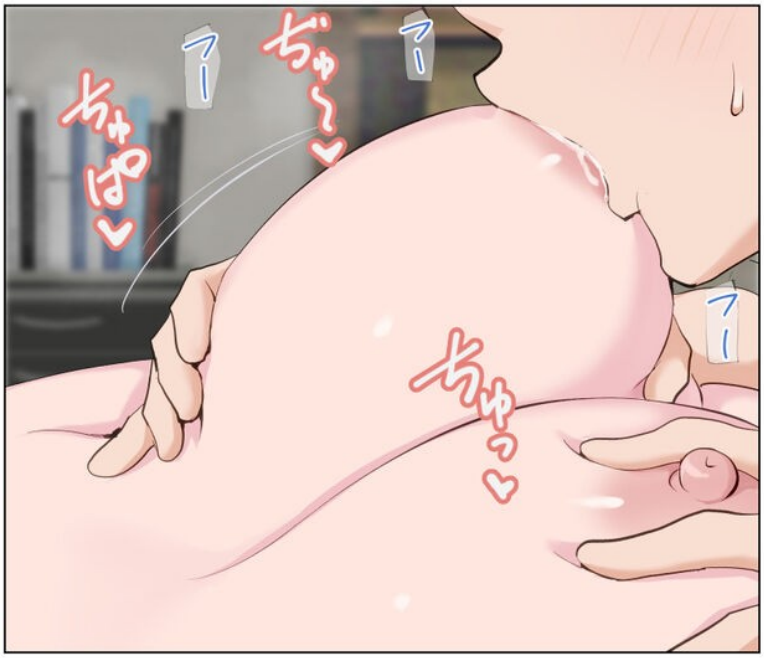

またここにっ…！
パンッ♡
膣内(なか)に出したいよっ…！
コツンッ♡


ダメッ…♥
あの日の事は忘れてっ…！
あっ♡
ハァ
ギシッ
やっ♡
ガチィ


あの日もそうだったけど・・・
拓馬君のおっぱいへの執着はすごくて・・・




きっと私に・・・
母親の面影を重ねていて・・・




彼のその気持ちは・・・
なんとなく理解出来るのだけれど・・・
でも何故・・・
私の方までもが・・・
拓馬君・・・♥
こんなにも彼を・・・
愛おしく感じてしまうのだろう・・・？


ああっ…！
詩織さんっ…
もうイキそうっ…！
あっ…！
イクッ…！
イクッ…!!

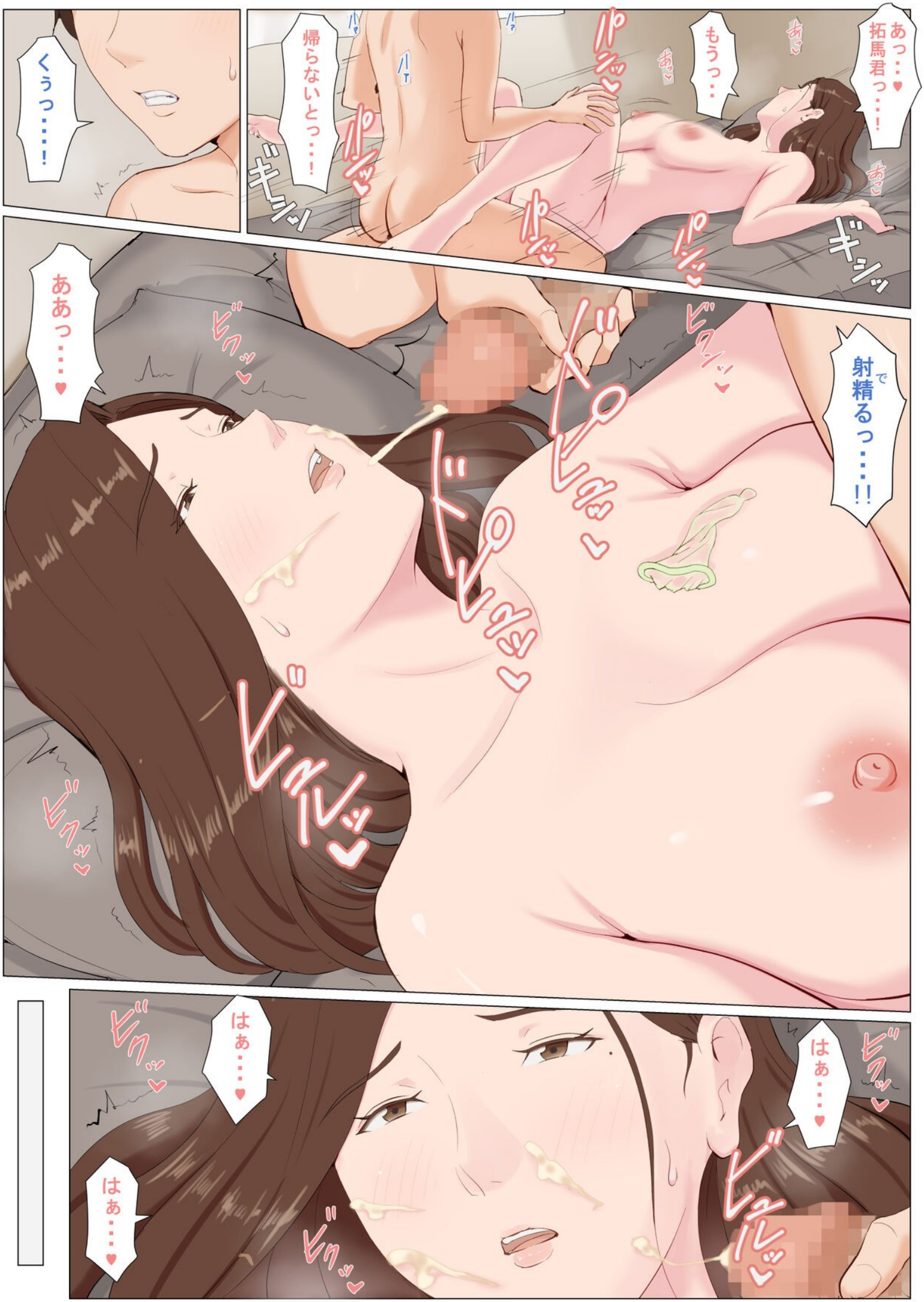

詩織さんっ…！
うぅっ…！
ビクッ
ビュルル
ビクンッ
あっ…♥
ビクッ
ビクンッ
はぁ…♥
くぅっ……!!
ビクンッ
～～～～～～♥
ビュルル
ビュルル
ビュルル
ビクッ
ビュルル
ビュルル
ビュルル

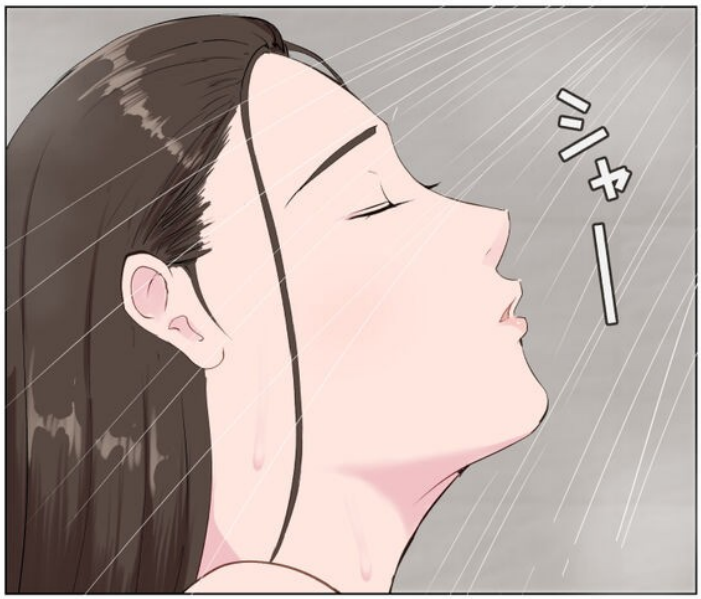

拓馬君は
全然満足できてない様子で…
スキャッ
ハァ
ハァ
ハァ
あっ♥待って…
そんなすぐっ…！
メプッ…
ビクッ♥
ビクンッ♥
ビクッ♥
～～～～～♥
ズンッ♥
あっ…♥
ギシッ
パンッ♥
あっ♥
拓馬君っ…♥
あっ♥
ギシッ
パンッ♥
ダメっ…♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
ハァ
ハァ


拓馬君の性欲は
衰える事なく…
ほとんど休む事無く
腰を振り続け…

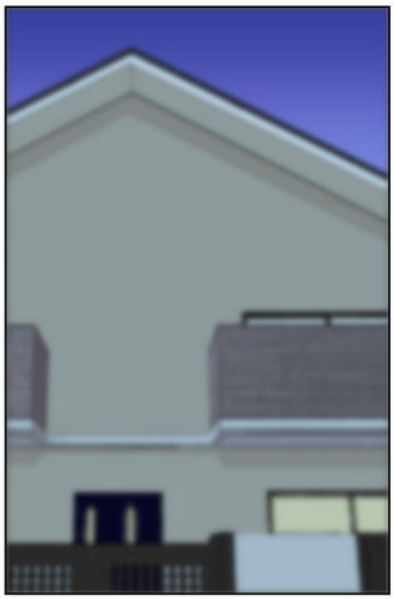

私の膣内で出せない鬱憤を…
うぅっ…！
ドピュッ
ビクッ
はぁ…
あっ…♥
ドクンッ
すごっ…♥
射精るっ…！
ビュッ
ビュルルッ
ぶつけるように…

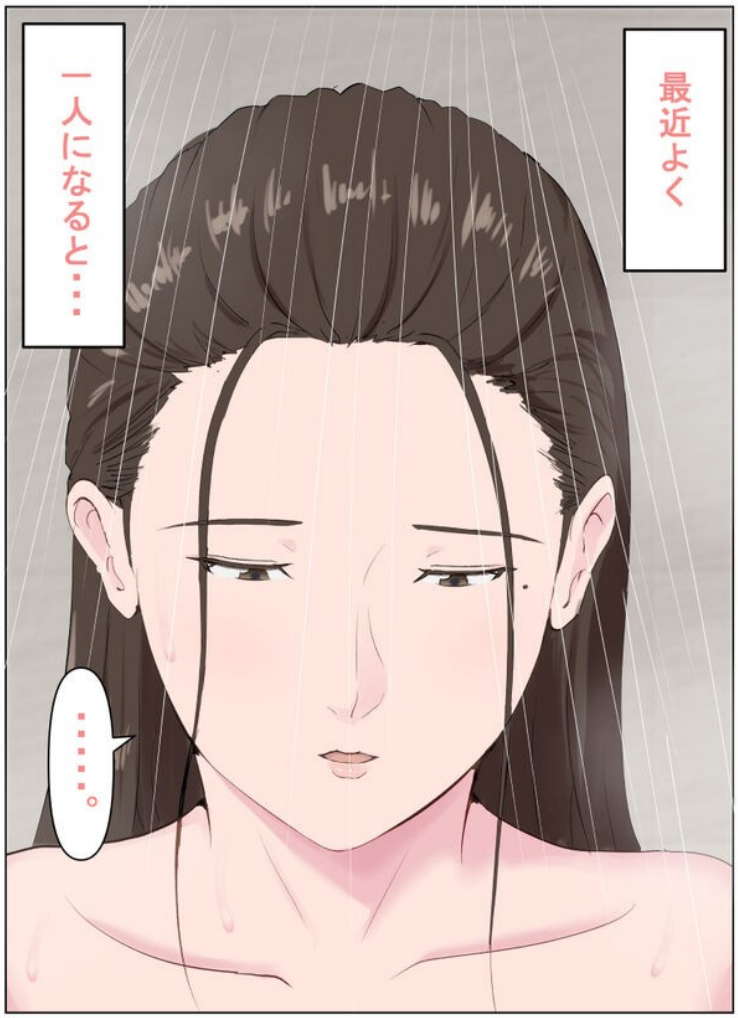

何度も何度も…
詩織さんっ…!
ハァ
ハァ
ビクッ
ビクッ
ビクッ


あっ…♥拓馬君っ…！
もうっ…
帰らないとっ…！
くうっ…！
パンッ
パンッ
パンッ
ギシッ
ギシッ
あっ
あっ
あっ
射精るっ…!!
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ドピュッ♥
ドピュッ♥
ドピュッ♥
ああっ…♥
はぁ…♥
はぁ…♥
はぁ…♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ビュルッ♥

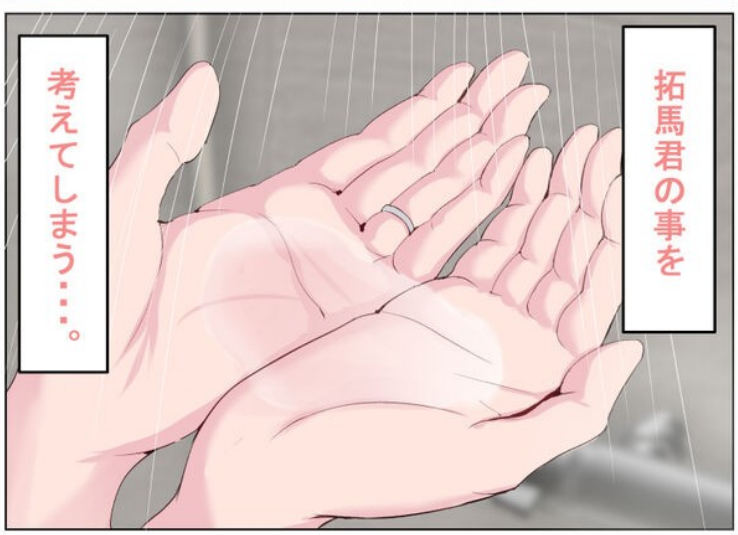

シャー


シャー




最近よく
一人になると・・・
・・・・・。


シャー


拓馬君の事を
考えてしまう・・・。

初めて会った時から

どこか放おって
おけないような・・・

不思議な感覚のする
男の子で・・・

だから彼の身の上を
聞いて、

迷う事無く毎日夕食を
ご馳走した・・・

彼以外の子だったら
正直そこまでして
あげたかどうか・・・

私の作った料理を

たくさん食べる
彼の姿を見て・・・

ガツ

うまい！

ガツ

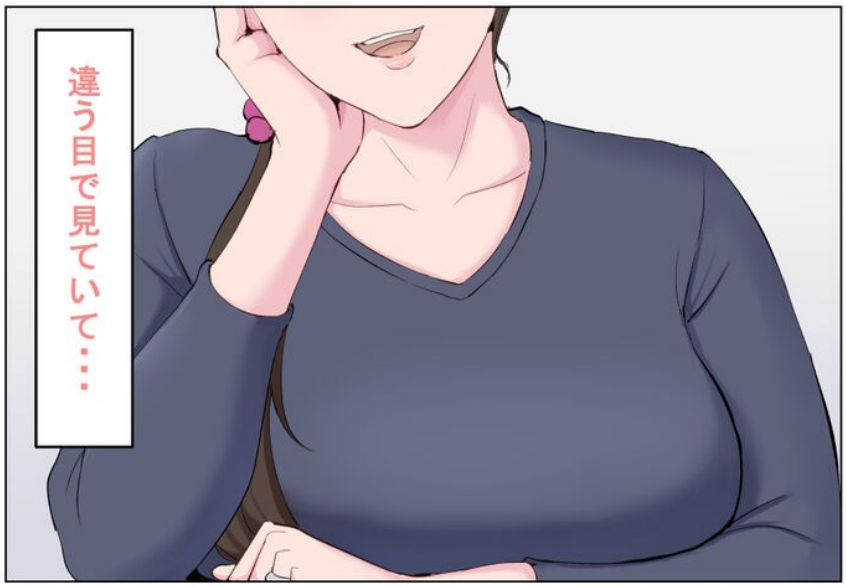
うまい！

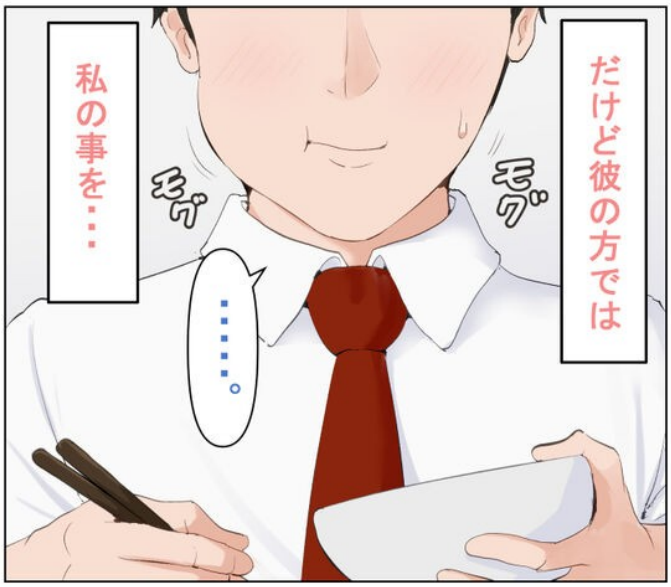
私はなんだか
息子ができたみたいで

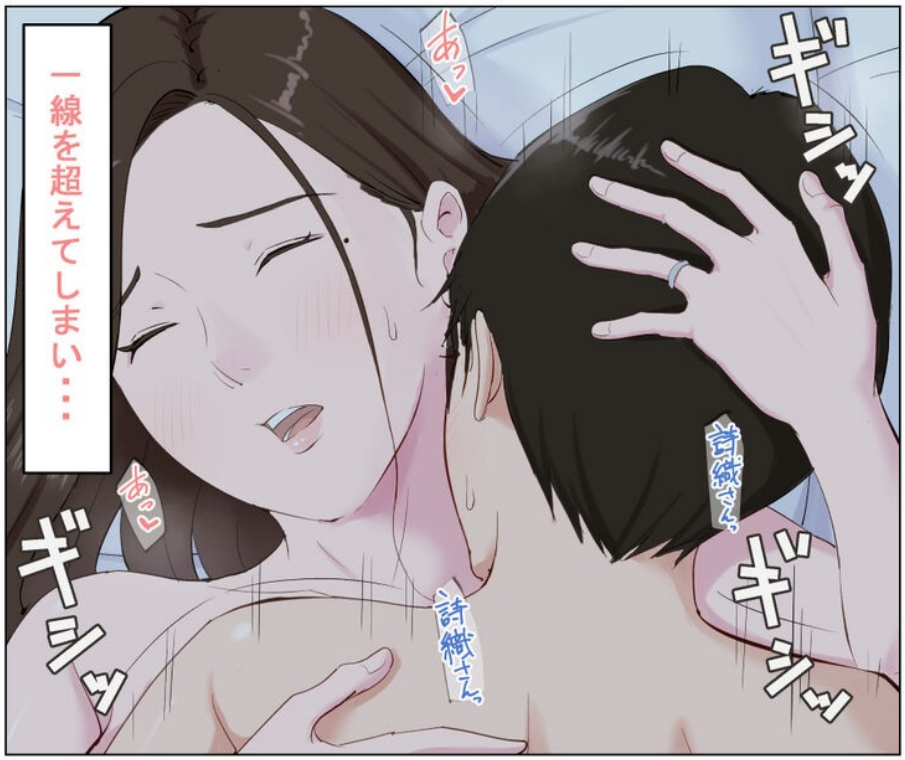
嬉しかった・・・

あわてないで

おかわり
あるからね


違う目で見ていて・・・


だけど彼の方では
私の事を・・・
モグ
モグ
・・・・・。


一線を超えてしまい・・・
ギシッ
ギシッ
ギシッ
あっ
あっ
詩織さん。
詩織さん。


彼の熱意にほだされて・・・
フー
フー
んっ
んっ
ちゅっ
ちゅぱ


あんなにたくさん・・・
そして今日も・・・
はぁ・・・
はぁ・・・
ビクッ
ビクッ
ハァ
ハァ


まだ…
体に精液の匂いが…
染み付いている
気がして…
……。
ドクンッ♡
ドクンッ
スッ
もぞっ♡
ピクッ♡
んっ…♥
ねぇママ～
お風呂まだ～？
!!
っ……!!
ビクッ！
ご、ごめんねっ…！
もうあがるから…。

8月某日ー

ミーン

ミーン





また来るね・・・

お父さん・・・

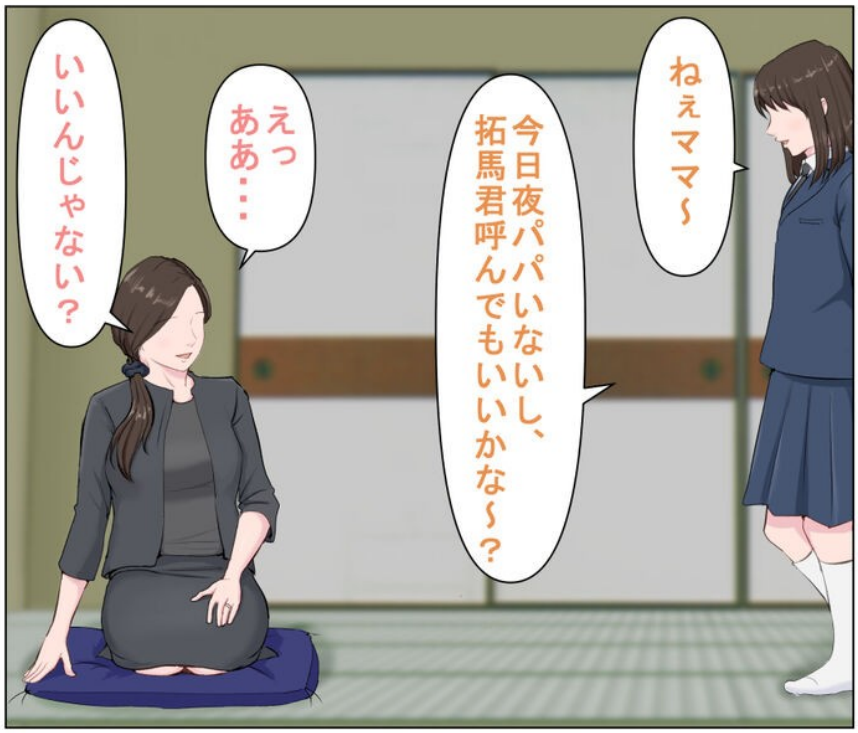


ねぇママ～

今日夜パパいないし、拓馬君呼んでもいいかな～？

えっ ああ・・・

いいんじゃない？



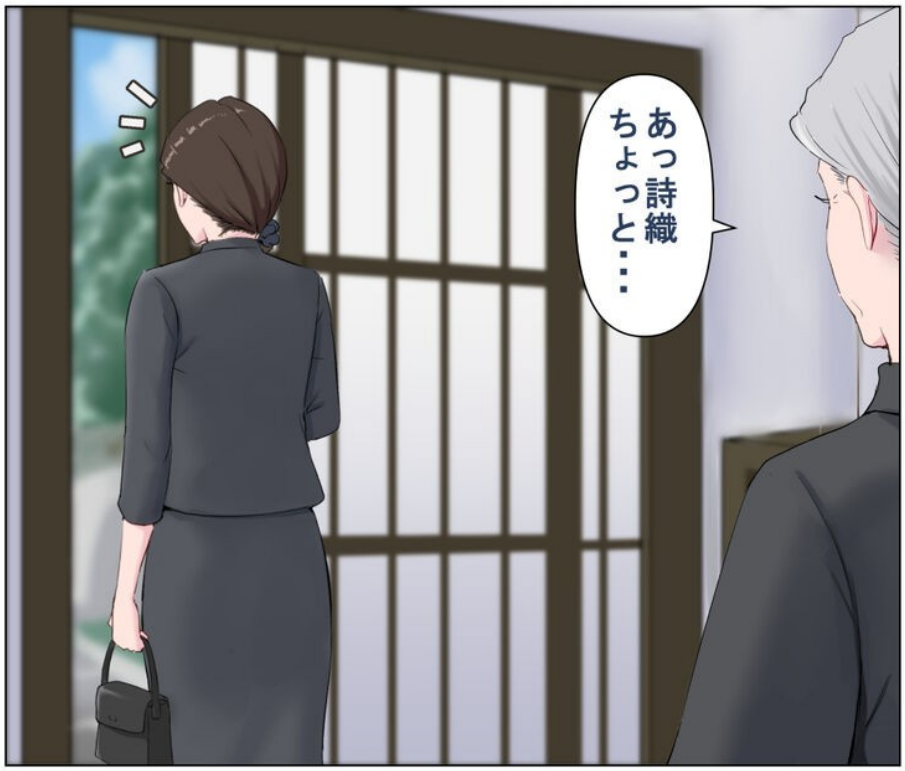
それじゃお母さん私達そろそろ・・・

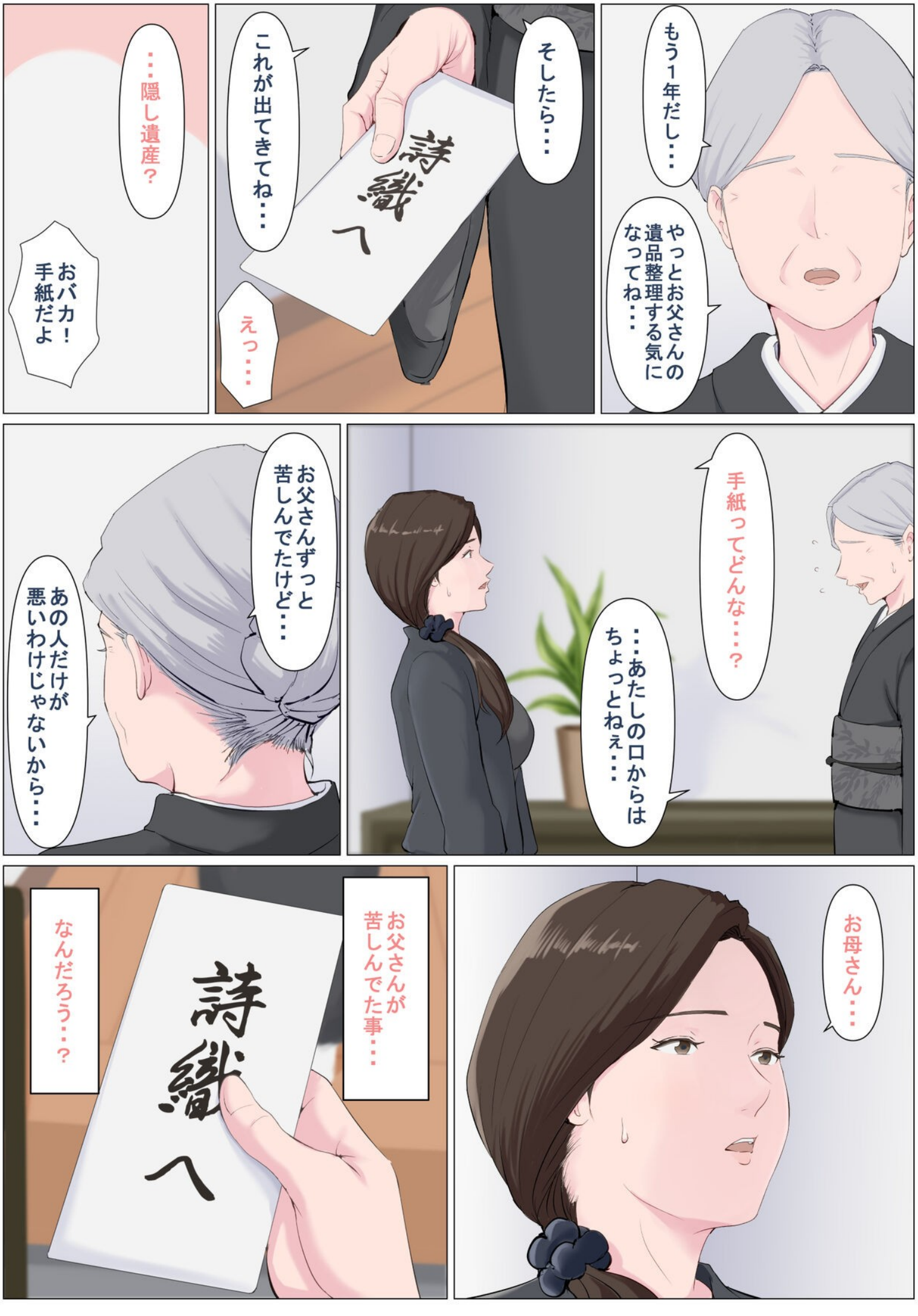
おばあちゃんまたね～

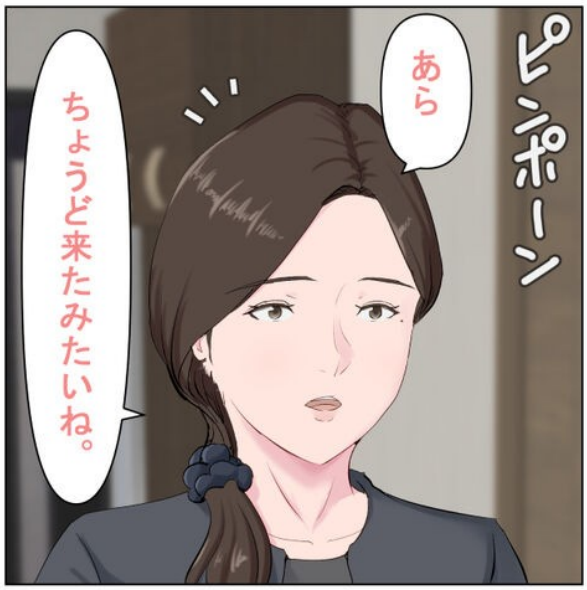
はいはいまたね



あっ詩織ちょっと・・・




もう1年だし…
やっとお父さんの遺品整理する気になってね…
そしたら…
これが出てきてね…
詩織へ
えっ…
…隠し遺産？
おバカ！手紙だよ
手紙ってどんな…？
…あたしの口からはちょっとねぇ…
お父さんずっと苦しんでたけど…
あの人だけが悪いわけじゃないから…
お母さん…
お父さんが苦しんでた事…
詩織へ
なんだろう…？


ピンポーン
あら
ちょうど来たみたいね。


ママ～
私シャワー浴びるけど、
拓馬君もう来ると
思うから～
ハイハイ


ただいま～
う～
線香の臭い・・・


ガチャ
いらっしゃい。
ごめんね～
こんな格好で・・・
えっ・・・！


ど、どなたか
亡くなったんですか・・？
違うの
うちの父の一周忌でね・・
今帰って来た
とこなの。


未来はシャワー
浴びてるし・・
私も着替えてくるから
居間で待ってて？
は、はぁ・・


ムチッ
ムチッ
トン
トン
トン
……。
ムラッ…
ゴクリ…
スッ…


フンフンフン♪
ごし
ごし
フンフ～ン♪
ねぇママ～
ごし
ごし
拓馬君来た～？
…。
シーン…。
聞こえてないな…
ガタッ
ガタッ


ガタッ
ハッ
あっ…♥
ハッ
あっ
あっ
パンッ
パンッ
あっ…♥
パンッ
パンッ
ガタッ
ガタッ
ダメっ…♥
やっ
あっ
ガタッ
パンッ
パンッ
パンッ
拓馬君っ…♥
あっ
ああっ…♥
ハッ
ガタッ
ハッ
あっ
ガタッ


詩織さんっ・・・！
ごめんなさいっ・・・！
詩織さんの喪服姿っ・・・
すごくエロくてっ・・・！
ガタッ
ガタッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
ハッ
ハッ
ハッ
あっ
あっ
あっ

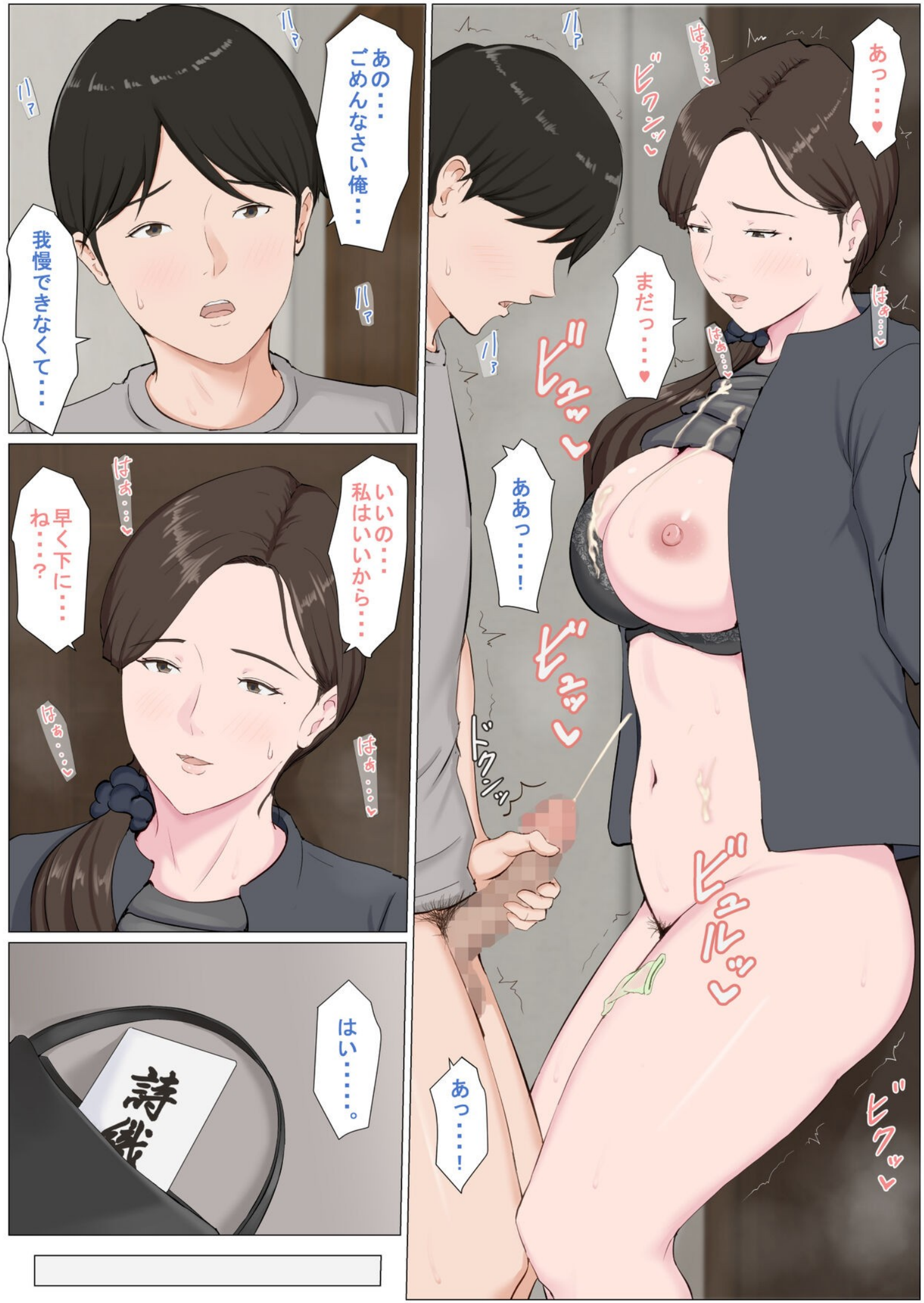

い、いいからっ・・・！
早く終わらせてっ・・・！
ガタッ
ガタッ
ハッ
ハッ
ハッ
あっ

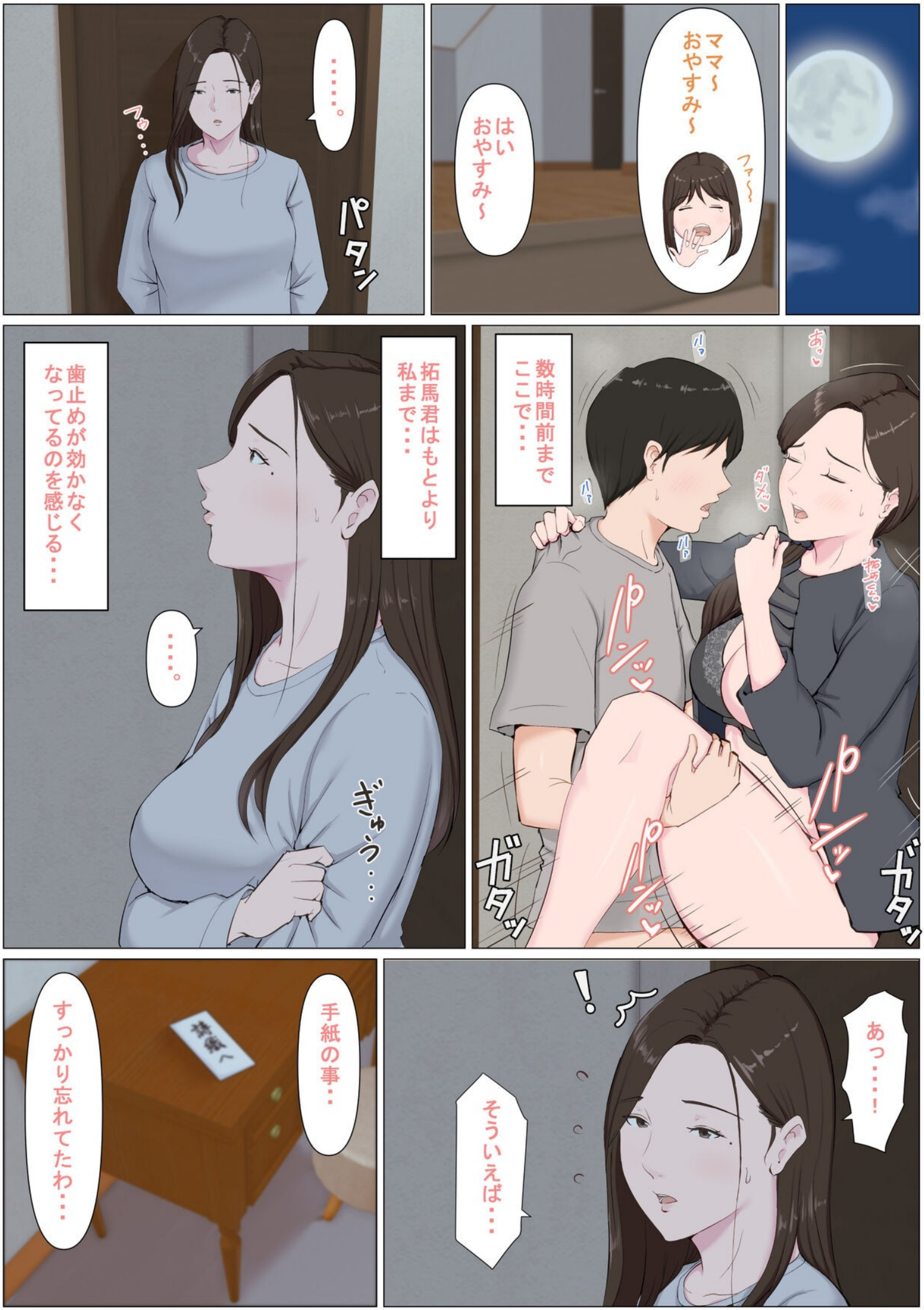

いくら未来が…
シャー
シャワー中とはいえ…
下に居るのに…
クイッ
たぷんっ
こんなの絶対…
ガタッ
ガタッ
どうかしてる…
ガタッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
ちゅっ
ちゅぱっ
フー
フー
ハァ
ハァ
あっ
あっ
んっ
んっ
拓馬くん


でも…
この子といると…
正常な判断が…
できなくなっちゃう…
ガタッ
ガタッ
ガタッ


ああっ…！
ガタッ
パンッ
パンッ
パンッ
射精で
射精そうっ…！
ガタッ
いいのよっ…
あっ
あっ
パンッ
パンッ
射精だ
射精してっ…
体にっ…
ハァ
ハァ
あっ
あっ
あっ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
体にかけていいっ…!?


あぁっ…！
詩織さんっ……!!
ビクッ
ビクッ
ビクッ


あっ…♥
はぁ…
ビクンッ
まだっ…♥
はぁ…
はぁ…
ビュッ
ああっ…！
ビュッ
ビクンッ
ビュルッ
あっ…！
ビクッ
あの…
ごめんなさい俺…
我慢できなくて…
はぁ…
いいの…
私はいいから…
早く下に…
ね…？
はぁ…
はぁ…
はい……。
詩集


ママ～
おやすみ～
ファ～
はい
おやすみ～
パタン
……。
フゥ…
数時間前まで
ここで…
あっ
ハマ
ダメ～
ハァ
パンッ
パンッ
パンッ
ガタッ
ガタッ
拓馬君はもとより
私まで…
歯止めが効かなく
なってるのを感じる…
……。
ぎゅう…
あっ…！
！
そういえば…
手紙の事…
すっかり忘れてたわ…

詩織へ

こんな形でしか
伝えられなくてすまない

ずっとお前に秘密に
していた事がある

お前には姉がいた

えっ・・・

「いた」というのは・・・
その人はすでに
亡くなっている。

私はお前が生まれる前

別の家庭を
持っていた

しかし職場で
一人の女性

つまりお前の母さんの事を
愛してしまい・・・

妻と幼い娘を
置いて

駆け落ちした・・・。

か、駆け落ち・・・!?

そんな事・・・
お母さんも一言も・・・

その後前妻との離婚が成立し、

お前が産まれた。

当然だが残して来た娘・・・

美雪とは連絡を取ることも許されなかった・・・。

物心ついたら話そう・・・成人したら話そう・・・

ずっと自分に言い聞かせてきたが・・・

娘のお前に娘を捨てた話を

どうしてもする事ができなかった・・・。

そして時が流れて一度だけ・・・

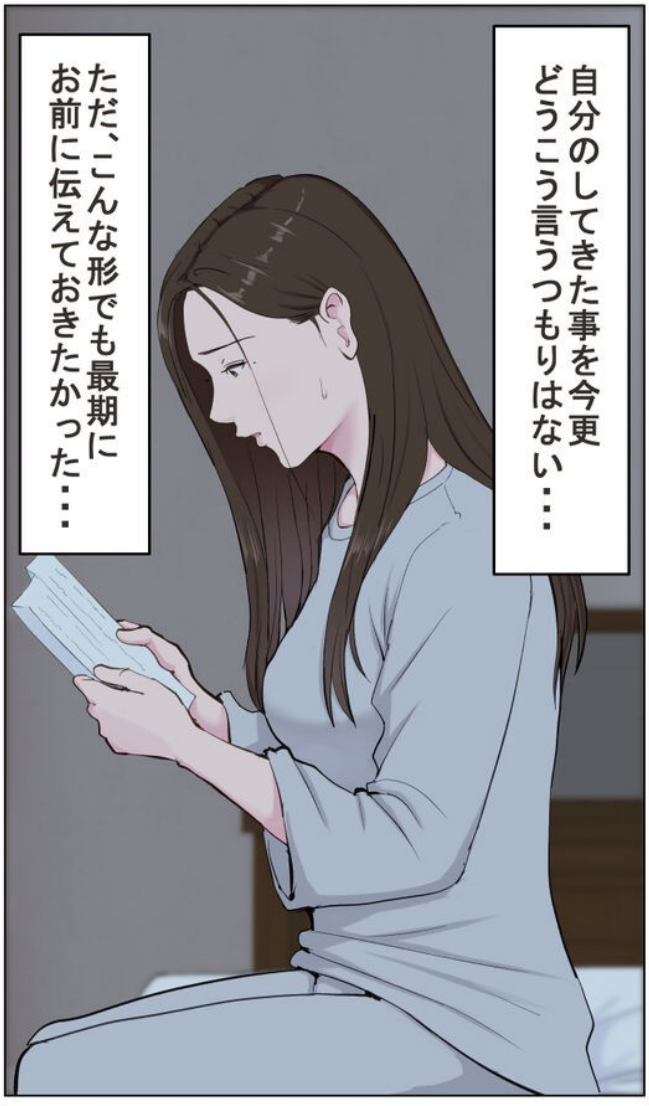
美雪が男の子を連れて私を訪ねて来てくれた事があった。

聞けばちょうど未来(みく)と同じ歳らしい・・・

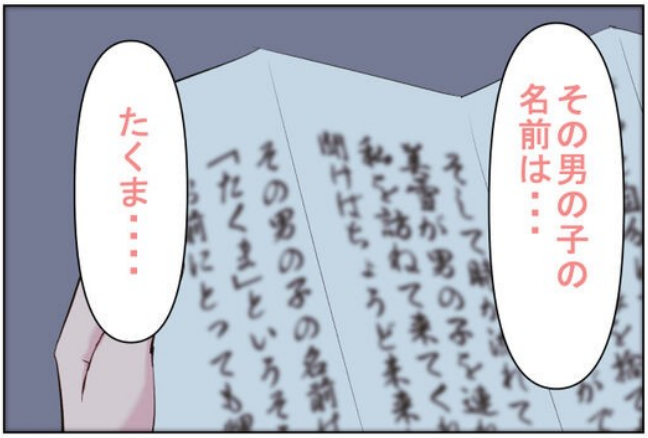
その男の子の名は・・・

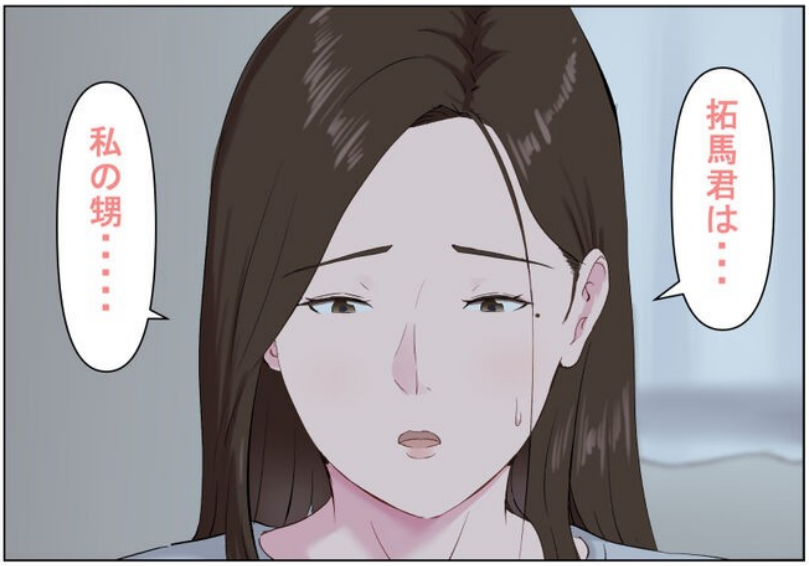

「たくま」……。


美雪はこんな私を許し、
また来ると言ってくれたが…
その後すぐに事故で
亡くなってしまった…


自分のしてきた事を今更
どうこう言うつもりはない…
ただ、こんな形でも最期に
お前に伝えておきたかった…


もちろんただの
偶然かもしれない…
亡くなった母は
詩織さんに
少し似てるんです…
私に？
けれどこの時
私は確信していた…
初めて会った時から
どこか放おって
おけないような…


その男の子の
名前は…
たくま…

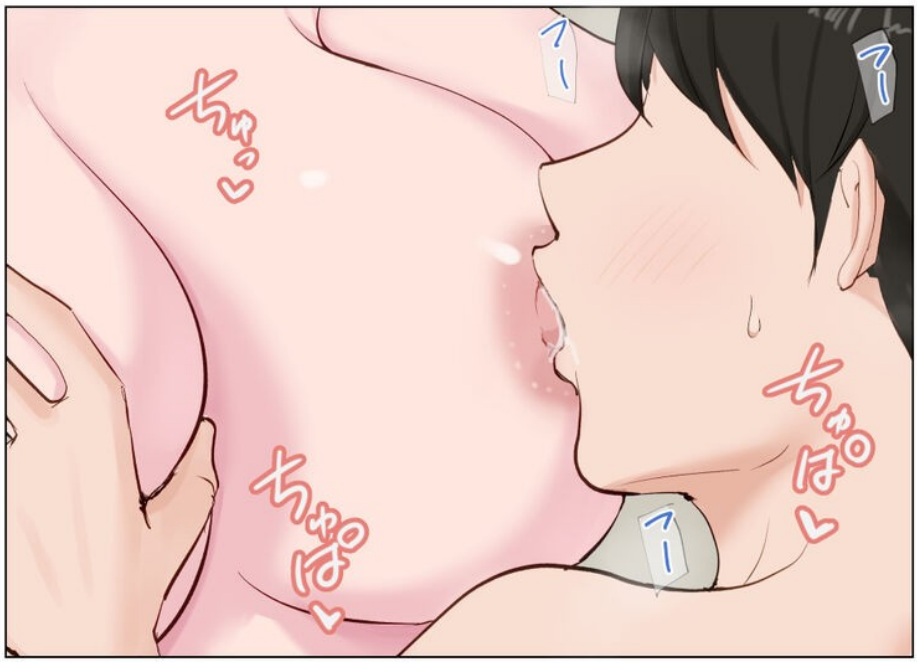

拓馬君は…
私の甥……


数日後―
ガチャ
パアッ
詩織さんっ…！
ごめんね
急に押しかけて…
いえ全然！
嬉しいです！
急で申し訳ないんだけど…
お母さんの写真
見せてくれない…？
えっ…
母のですか…？
いいですけど…
ああ…
そうね…
目元がお父さんに
そっくり…
お母さんの名前は…
美雪であってる…？
!?
えっ…！
何で知ってるんですか…？
拓馬君…
今から私が
する話を…
落ちついて
聞いてね…？


詩織さんが…
俺の叔母さん…？
私も最近…
父の遺した手紙で知ったの…。
あっ…！ごめんね急にこんな話…
泣かないで…
ウッ…
ウッ…
スー
ごめんなさい…でも…
グスッ
悲しいんじゃないんです…
ずっと詩織さんに…
母の面影を重ねてて…
ゴシ
ゴシ
ちゃんと繋がりがあったなんて…
それがただの思い込みじゃなくて…
グスッ
拓馬君…
じわっ…


お母さんいなくて…
寂しかったね…
ぅぅー
スゥ…。
詩織さん…
じわっ…。
ああ…なつかしい…
ママ…
うっ…
ううっ…
拓馬君はその後しばらく…
私の腕の中で静かに泣いた…。


どう…？
少しは落ちついた…？
はい…
でも…
詩織さん
いい匂いで…
その…
ギン
ギン
あっ…
プッ…
フフッ…
あっ…
ちょっ…
前にもあったわね
こんなの…
笑わないで…
拓馬君は私が
叔母さんって
分かっても…
そういう事
したい…？
も、もちろん
したいですっ…！
詩織さんは
もう嫌…？
フフッ…♥
ずるいわ…
そんな顔
されたら…
嫌って言えない
じゃない…

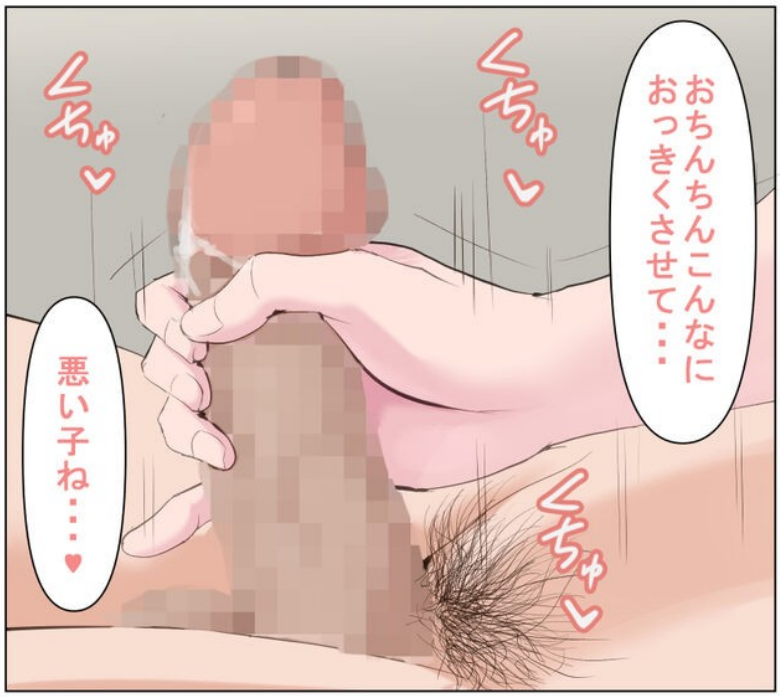

フー
ちゅっ♡
ちゅぱ♡
フー
ちゅぱ♡
フー

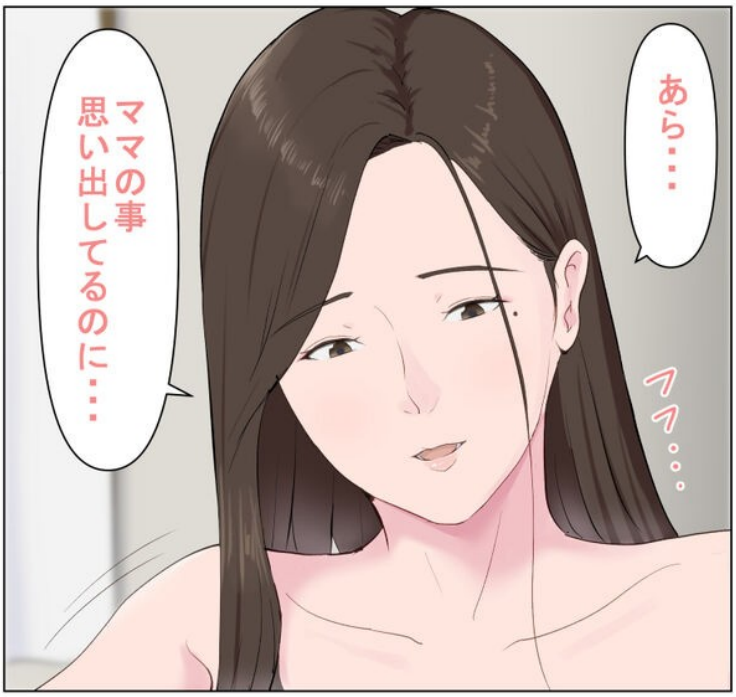

あんっ…♥
ちゅっ♡
フー
もうっ…
ちゅぱ♡
フー


ハァ
ちろ♡
やっぱり詩織さんのおっぱい…
ちろ♡
ちゅぱ♡
ハァ


フー
ちゅ～♡
ママとおんなじ匂いがする…
ちゅっ♡
ちゅ～♡
フー


フフ…
さっきからずっと吸ってるけど…
んっ♡
んっ♡
もにゅ♡
ちゅぱ♡
ちゅ～♡
フー
ちゅぱ♡
そんなにおいしい…？
ちゅっ♡
フー


くちゅ
くちゅ
おちんちんこんなにおっきくさせて…
くちゅ
悪い子ね…♥


あら…
ママの事思い出してるのに…
フフ…


ビクッ
あっ…!
ちゅぱ
ママっ…!


んっ…!
んんっ…!!
ん～?
もう射精ちゃいそう?
いつでも射精していいのよ
ビクッ
フー
ちゅぱ
ちゅぱ
もにっ
もにっ
ちゅぱ
くちゅ
くちゅ
ビクッ

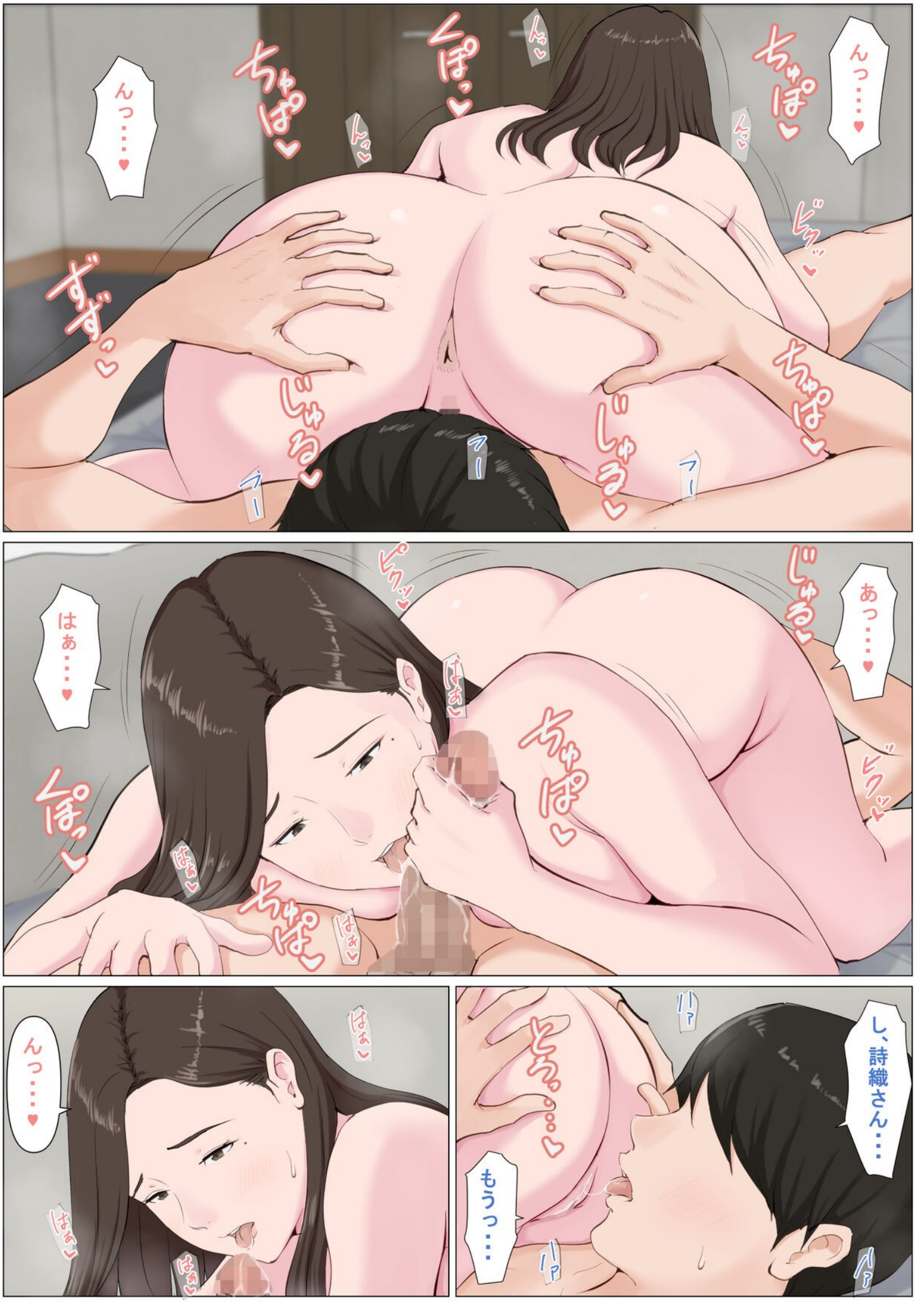

はいはい
ピュッピュしましょうね～

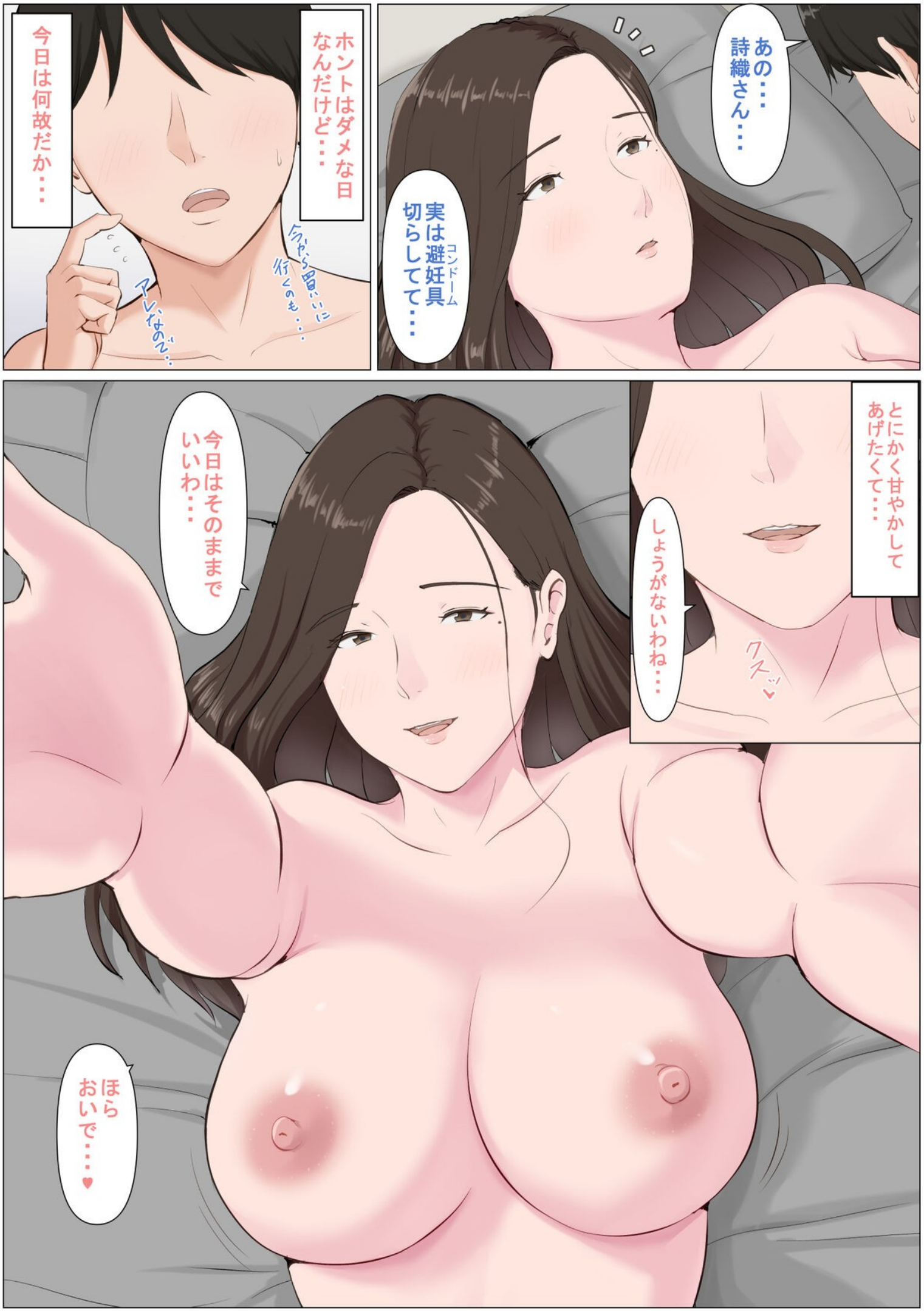

うぅっ……!!
あっ……♥
ビクッ
フー
フー
フー
フー
ビュルッ
ビュルルッ
ドピュッ
ビュルッ
ドピュッ
ビュルッ
ドクンッ
ビクッ
ビクンッ


フー
んっ……!
ビクッ
フー
んっ……!!
ビクッ


フフ……♥
そんなに気持ち良かった……？


詩織さん…
く、口で…
はいはい
ビクッ
ビクッ
クイッ
ちゅぽ
ちゅぽ
ちゅぽ
ちゅぽ
んっ
んっ
んっ
んっ
んっ…♥
ちゅぽ
ちゅぽ
ちゅっ
ちゅっ
んんっ…♥
ピクッ
じゅる
ずずっ
ビクッ
ビクッ
ぐぽっ
ぐぽっ
ぐぽっ
ずずっ
じゅる
ちゅぽ


んっ…♥
ちゅぽ♪
ちゅぽ♪
んっ…♥
ずず♪
じゅる♪
ちゅぽ♪
じゅる♪
あっ…♥
はぁ…♥
ぱぁ♪
ちゅぽ♪
ぱぁ♪
ぱぁ♪
ぱぁ


ホントはダメな日なんだけど…
今日は何故だか…
今やら留いに行くのも…
アレなので…
あの…詩織さん…
実は避妊具（コンドーム）切らしてて…
とにかく甘やかしてあげたくて…
しょうがないわね…
クスッ♡
今日はそのままでいいわ…
ほらおいで…♥

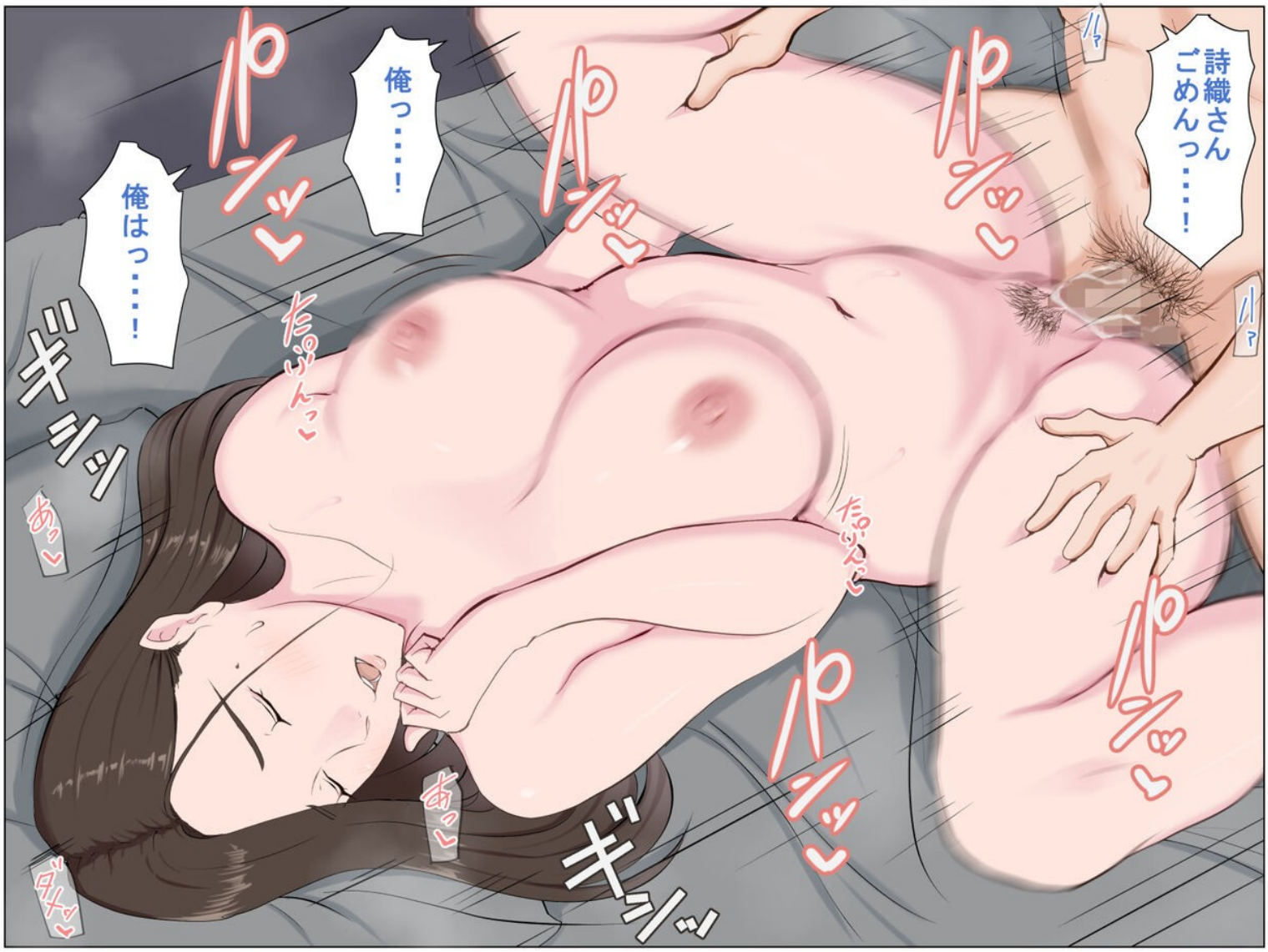

あっ…♥
ハァ…
ハァ…
ハァ…
ハァ…
ハァ…
ハァ…
あっ…！
やっぱりっ…
全然違うっ…！
パンッ
パンッ
パンッ
ギシッ
ゾクゾクッ
詩織さんっ…！
ブルンッ
パンッ
パンッ
パンッ
ギシッ
ギシッ
詩織さんっ…！
パンッ
あっ
あっ
あっ


あっ…♥
拓馬君っ…♥
ギシッ
あっ
ダメ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
ギシッ
たぽんっ
たぽんっ
拓馬君の…
すぐに膣内でなじんで…
ぐちゅっ
にちっ
ぐちゅっ
ぐちゅっ
私の肉体も…
彼のを受け入れたがってる…
あっ
あっ
拓馬くん


拓馬君・・・
まるで
失くしたものを・・・
ギシッ
パンッ
たぷんっ
あっ
ダメ
母親と過ごす
はずだった時間を・・・
はぁ
ハァ
私の肉体(からだ)に
必死に
甘えてくる・・・
取り戻そうと
するかのように・・・
フー
ちゅっ
ちゅぱ
んっ


いじらしくて…
愛おしい…
この子の望みを…
叶えてあげたい…

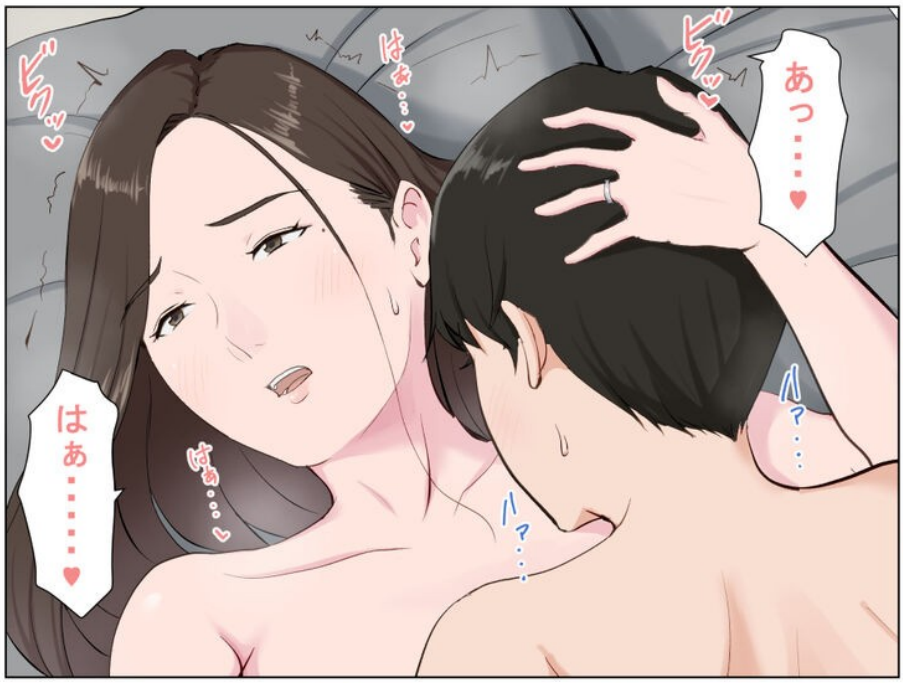

あっ…♥
拓馬君…
分かってると
思うけど…
赤ちゃん
出来ちゃうから…
ね…♥
赤ちゃん……
膣内(なか)で射精(だ)しちゃ
ダメよ…？
っ……!!
キャッ…!!
ドサッ!
パンッ
ギシッ


詩織さん
ごめんっ・・・！
俺っ・・・！
俺はっ・・・！
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
たぷんっ
たぷんっ
ギシッ
ギシッ
あっ
あっ
ダメッ

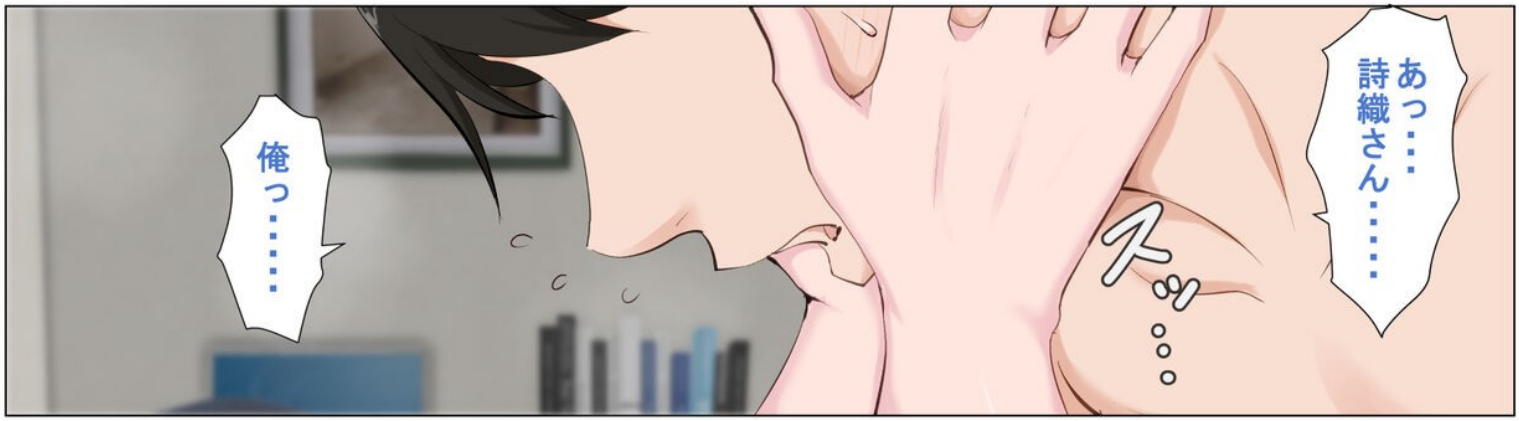

拓馬君っ・・・！
だめぇっ・・・♥
あっ
あっ


あっ・・・！
で
射精るっ・・・！
で
射精るっ・・・!!
あっ
あっ
ビクンッ
ビクンッ
ビクンッ


くうっ……!!
ビクッ
ビクビクビクビク
ビクビクビクビク
ビクビクビクビク

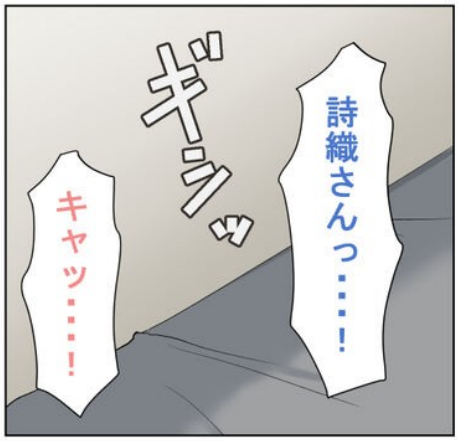

あっ…♥
はぁ…♥
ビクッ
ビクッ
はぁ…♥
ハァ…
ハァ…
はぁ…♥


ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクビク…♥
ビクビク…♥


あっ…
詩織さん……
俺っ……
スッ…

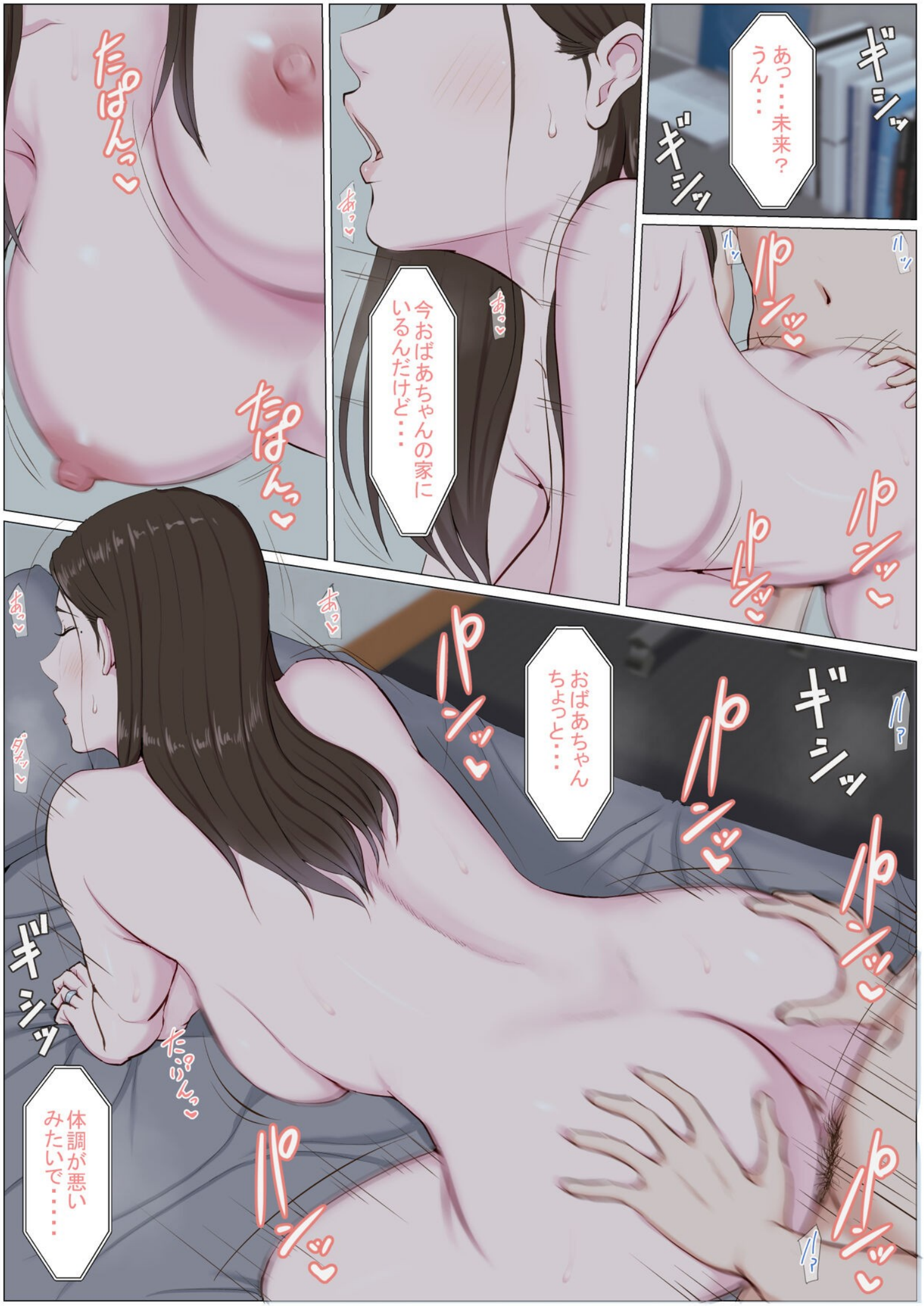

〜〜〜〜!!
ズキューン


フフッ…♥
もうっ…!
ダメッって言ったのに…
叔母さんを
孕ませようと
するなんて…
はぁ…♥
悪い子ね…♥
はぁ…♥
はぁ…♥

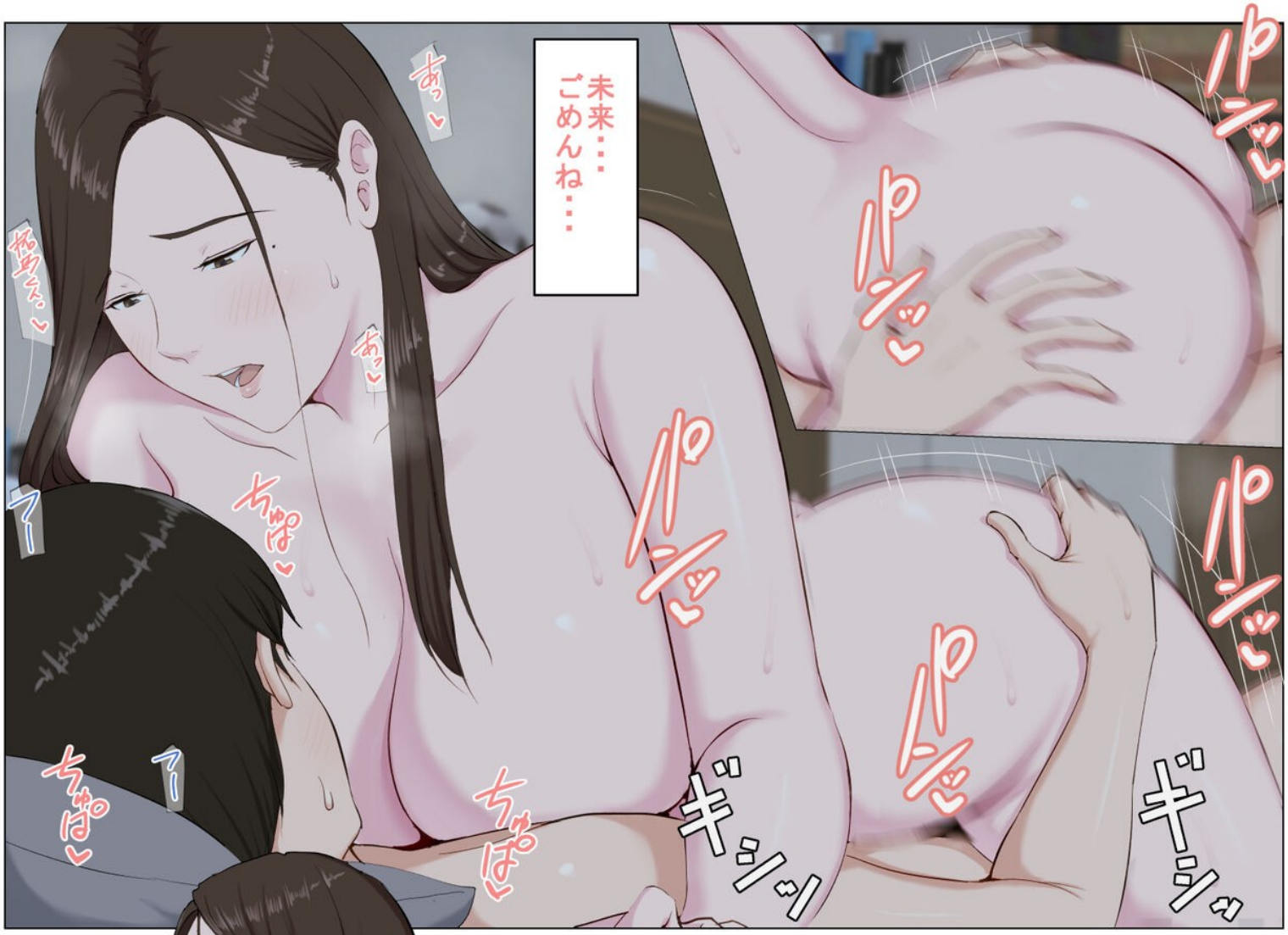

詩織さんっ…!
ギンッ
キャッ…!


あっ…
詩織さんっ…
ギシッ
ギシッ
今日うちの父親…
仕事で帰って来ないんです…
パンッ
パンッ
パンッ
だから…泊まっていってくれませんか…？
あっ
ダメッ
あっ…♥そ、そんなの…
たぷんっ
たぷんっ
困るわ…
お願い今日だけっ…
今日だけでいいからっ…
拓也くんっ
あっ
あっ…♥ダメッ…


うぅっ…！
詩織さんっ…！
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ビュルッ♥
ビュルルッ♥
ビュルルルルルルル♥
あっ…♥
ビクッ♥
ビュ～～～♥
ビュッ♥
ドプッ♥
溢れてっ…♥
ハァ…
はぁ…♥
はぁ…♥
ハァ…
んっ…♥
んっ…♥
んっ…♥
フー
フー


あっ…未来？
うん…
ギシッ
ギシッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
今おばあちゃんの家にいるんだけど…
あっ
あっ
たぷんっ
たぷんっ
おばあちゃんちょっと…
ギシッ
ギシッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
体調が悪いみたいで……


うん…
大丈夫みたい
少し休めば…
ビクッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビクッ
ビクッ
ビク

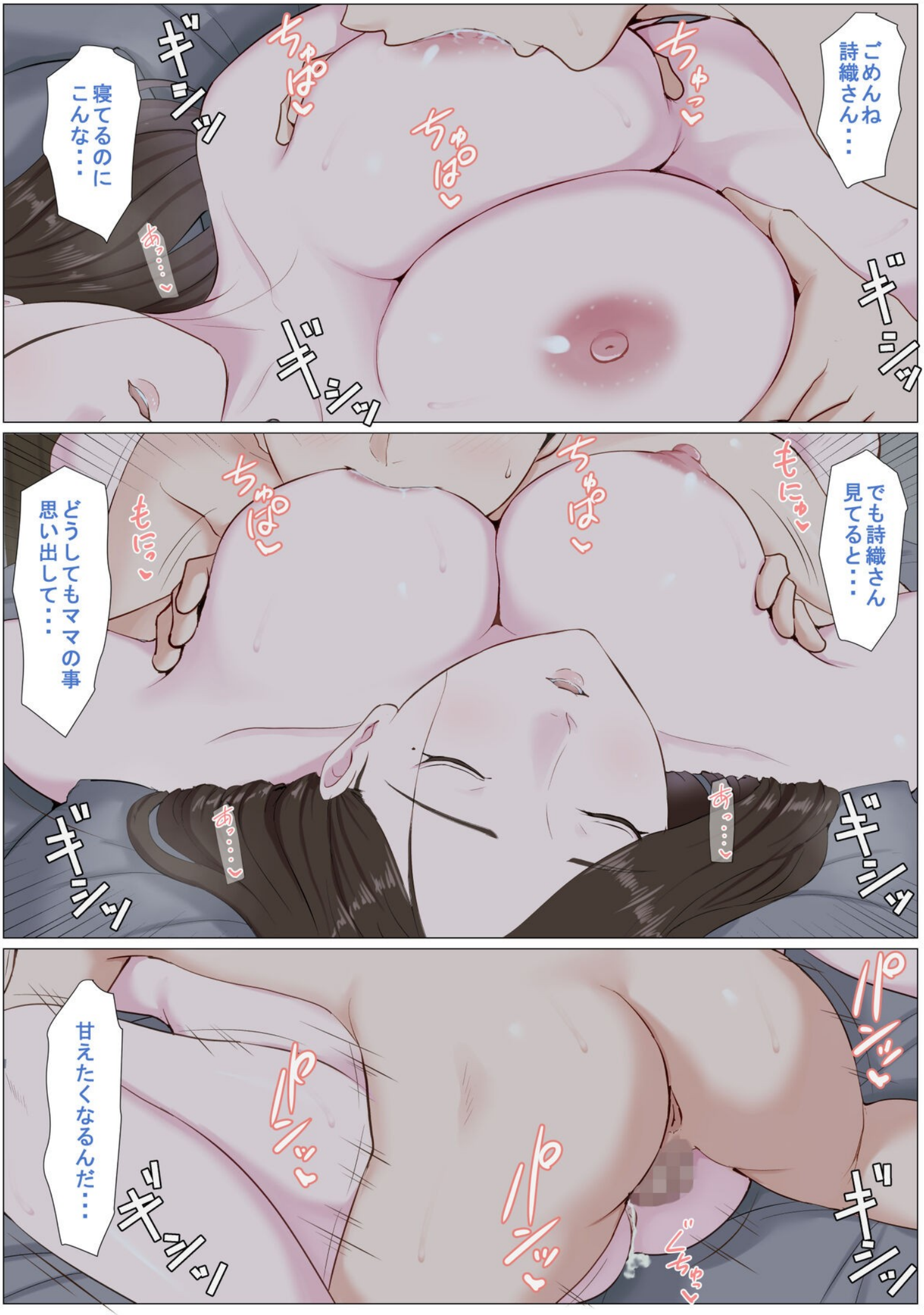



お母さん
今は…
ドクッ
ドクッ
ドクッ


この子の事しか・・・
考えられないの・・・・
あっ
もっ
ハッ
ハッ
ハッ
ダメッ
たぷんっ
たぷんっ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
あっ・・・♥
あっ・・・♥


カチッ
カチッ
ゴクッ
ゴクッ
パタンッ
フゥ…
カチャッ
スー…
スー…
詩織さん…？
むわっ…♡


詩織さん…
何か着ないと…
スー…
……
スー…
ダメだ…全然反応がない…
寝てる…というか失神してる…？
スー…
スー…
トロッ…♡
……。
ムクッ…

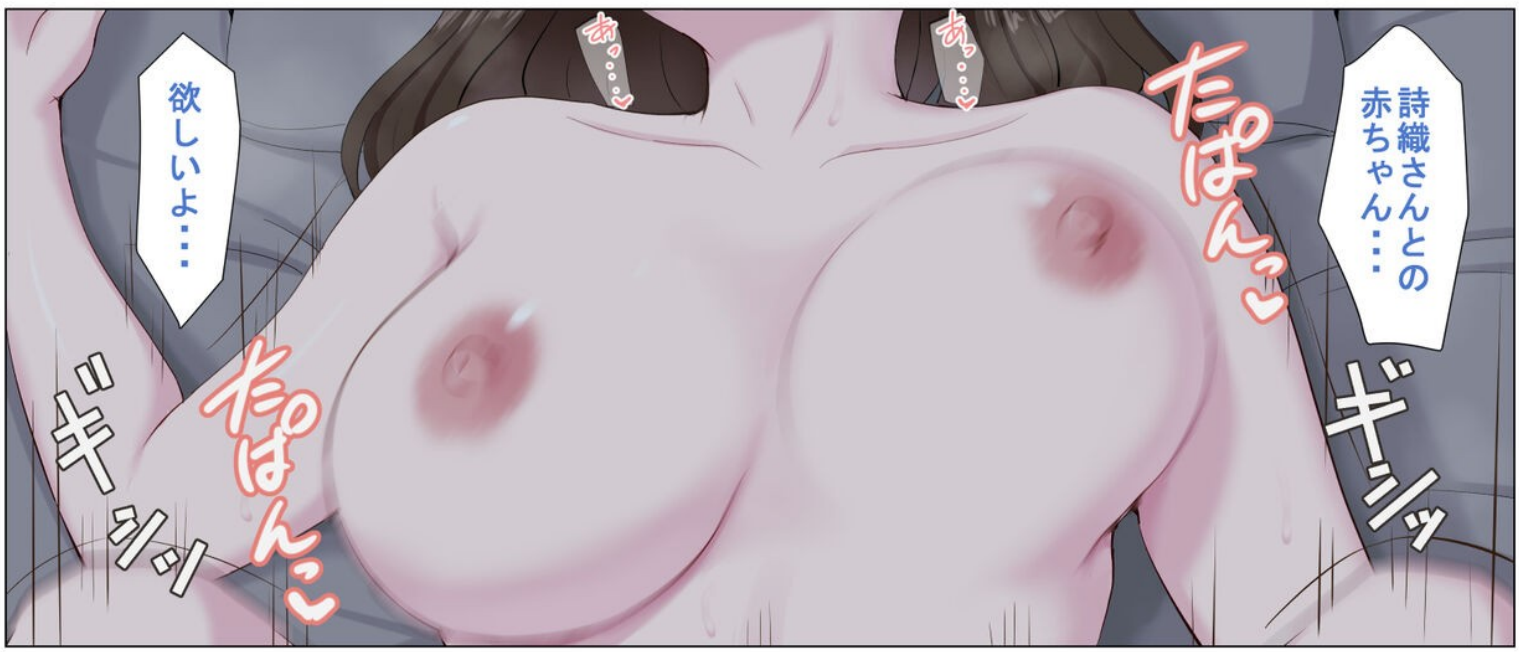

ごめんね詩織さん…
寝てるのにこんな…
ギシッ
ちゅっ
ちゅぱ
ちゅぱ
ギシッ
ギシッ
あっ…
でも詩織さん見てると…
どうしてもママの事思い出して…
もにゅ
ちゅぱ
ちゅぱ
もにゅ
あっ…
あっ…
ギシッ
ギシッ
甘えたくなるんだ…
パンッ
パンッ
パンッ
ギシッ
ぐちゅ


詩織さん…
ハァ
ハァ

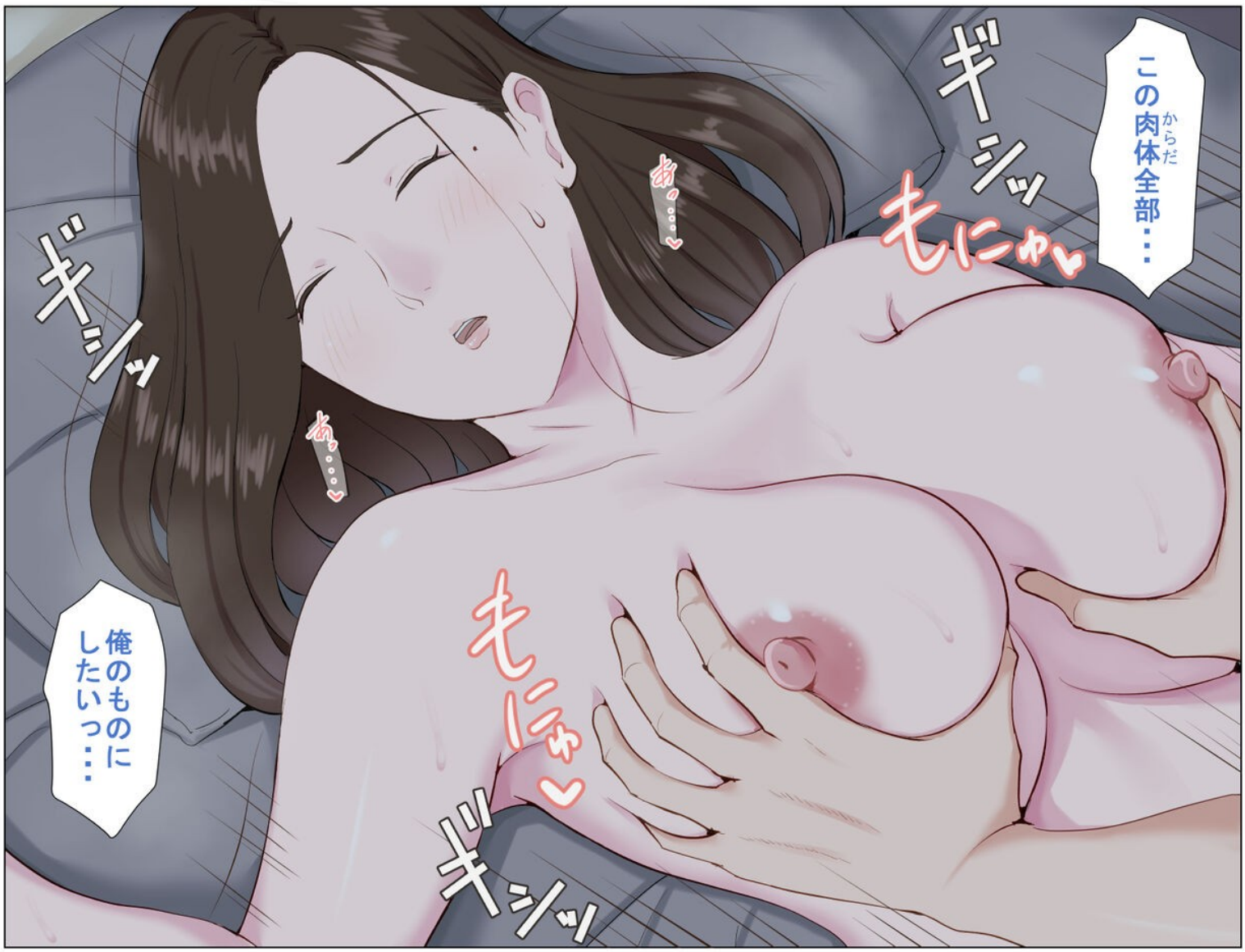

赤ちゃん
出来ちゃうから…
ね…♥
ちゅっ


あ…♥
あっ…♥


赤ちゃん…
ハァ
ハァ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
たぷんっ
あっ…♥
あっ…♥
産んでよ…


詩織さんとの
赤ちゃん…
ギシッ
たぷんっ
たぷんっ
あっ…♥
あっ…♥
欲しいよ…
ギシッ


詩織さん…
パンッ
パンッ
パンッ
たいっ
あっ…
あっ…
ギシッ
ギシッ
孕ませたい…

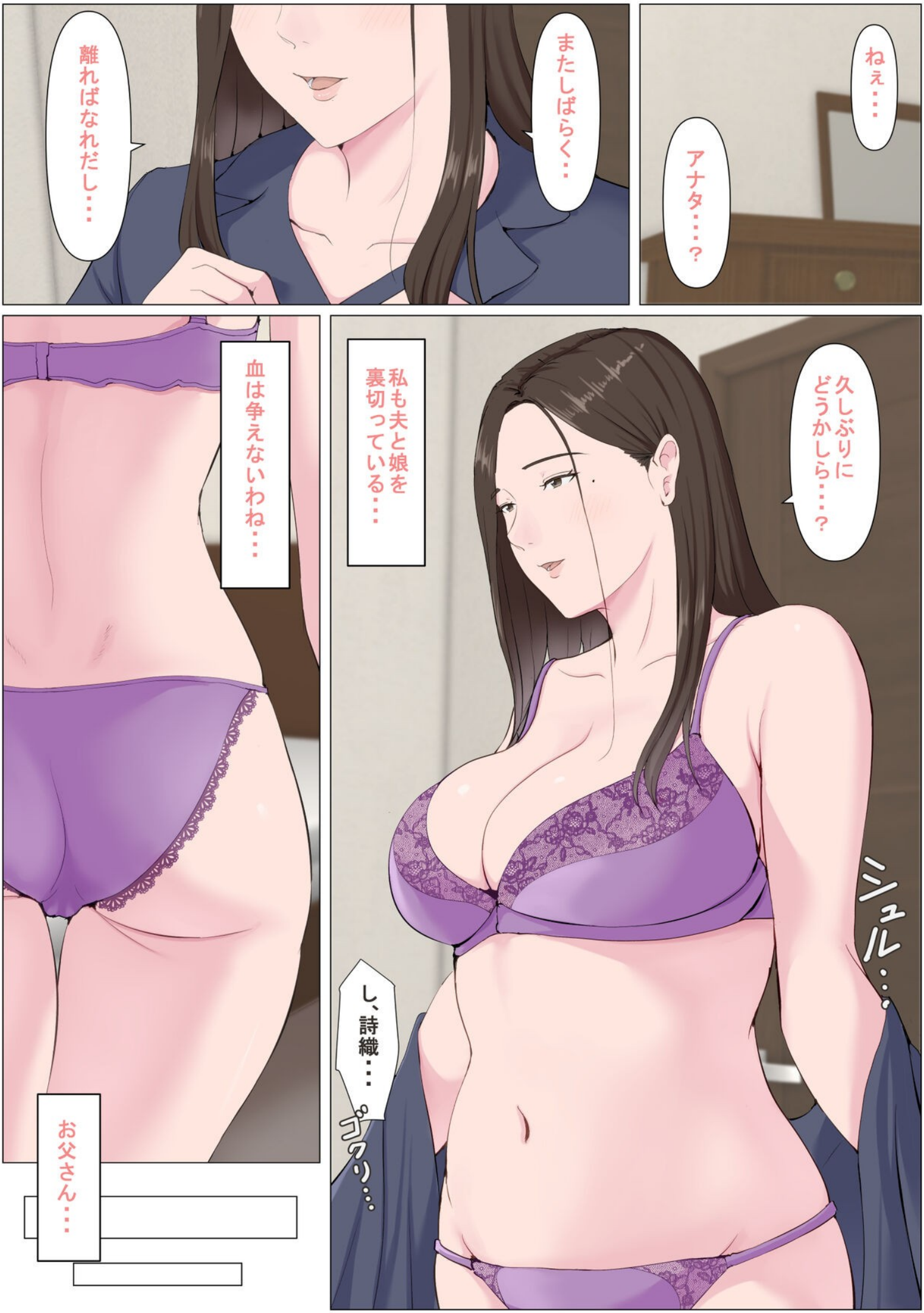

この肉体(からだ)全部…
ギシッ
もにゅ
あっ…
ギシッ
あっ…
もにゅ
ギシッ
俺のものにしたいっ…


ああっ……！
ゾクゾクッ
膣内にっ……！
全部膣内に射精すよっ……!!
パンッ
ギシッ
あっ……
うぅっ……！
孕めっ……！
孕めっ……!!
たぷんっ
詩織っ……!!


ぐうっ……！
ビクッ♥
～～～～～♥
ビクビクビク


あぁっ…！
止まらなっ…！
うぅっ…
ハァ…
ハァ…
ビクッ
ビュッ
ビュルルッ
ドクドクッ
ビクンッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ


数週間後…
ジャー
バタン
……。
どしたのママ？
へっ…？
あっ…！
な、何でもないの…
ボ～っとして…
夕飯…
何作ろうかな～…て
それでパパ、今度はいつ帰ってくるの…？
ん～……来年かな…
いいな～…私も海外行きたい…
ハァ～～…
遊びじゃないのっ！
フフフ…


ねぇ…
アナタ…？
またしばらく…
離ればなれだし…
久しぶりにどうかしら…？
私も夫と娘を裏切っている…
シュル…
し、詩織…
ゴクリ…
血は争えないわね…
お父さん…


数ヶ月後・・・
そういえばさぁ・・・
未来のとこの赤ちゃんってもうすぐじゃないの？
ん～もうちょっと先かな・・・
お腹はもうおっきいけどね
お母さんいくつだっけ・・・？
え～と今年41かな
あ～うちより全然若いわ・・・
いいな～私も弟か妹欲しい～
頼んでみれば（笑）
ムリ～～!!
キャーー
アーー
ギシッ
ギシッ


あっ…
ギシッ
ギシッ
ギシッ
たぱんっ
たぱんっ
たぱんっ
あっ…すごいっ…
綺麗だよ詩織さんっ…
はぁ
はぁ
はぁ
たぱんっ
たぱんっ
たぱんっ
たぱんっ
たぱんっ
そんなっ…♥
あっ…♥
はぁ
はぁ


あっ…♥
拓馬君っ…♥
待っ…♥
激しっ…♥
赤ちゃんっ…
驚いちゃうからっ…♥


ごめんっ
でもっ・・・！
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
久しぶりだし・・・
詩織さんの
この肉体・・・
あっ
あっ
たぽんっ
たぽんっ
たぽんっ
たぽんっ
ギシッ
ギシッ
エッチすぎて・・・
止まんないよっ・・・
あっ
ヌチャ
たぽんっ
たぽんっ
ブルッ

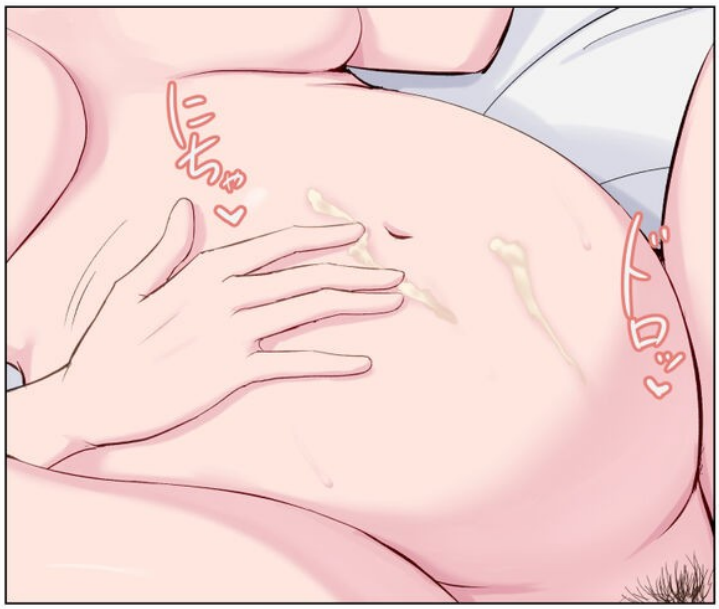

ああっ…！
詩織さんっ…！
好きっ…！
好きっ…！
たぷんっ
たぷんっ
たぷんっ
たぷんっ
あっ
あっ
詩織さんのこと…
何度でも
孕ませたいよっ…
そ、そんなっ…
無茶言わないで…
もにゅ
もにゅ
プシャッ
たぷんっ
たぷんっ


あっ…♥
拓馬君っ…♥
もうっ…
許してっ…♥
もうっ…
あっ…イクッ…！
イクッ…!!
もうイクからっ…！


イクッ…！
ビクッ
ビクッ
ビクッ


まだ射精るっ……！
ビクッ
ビュッ
ドクン
ビュルッ
ビクン
ポッ


くっ……！


にちゅ♡
ドロッ♡


あっ……♥
すごっ……♥
ビクッ♥
ビクこ
ビクンッ
ビュルッ
ビュルルッ♥
ドクッ
うぅ……


はぁ……♥
はぁ……♥
くちゅっ♡


あんっ…♥
ちゅぱ
15:30
ちゅぱ
ちょっと…
ちゅぱ
あっ
ちゅぱ
フー
拓馬君ってば…！
フー
ちゅぱ
いい加減にしないと…
未来が帰ってきちゃうから…
ちゅぱ
ん
フー
ちゅぱ
ちゅっ
ん～…
もうちょっと…
ちゅぱ
フー
ママ…
フー
ちゅぱ
フフッ…♥
もうっ…！
ママじゃありません！


でも、そうよね・・・
ずっと寂しかったんだもんね・・・
美雪さん・・・お姉さんごめんなさい・・・
決してあなたの望む形ではないでしょうけど・・・
あなたの代わりに
私がずっとこの子を・・・
いえ、この子達を・・・
見守っていきますから・・・
完

あとがき

どうも、ほーすているです。いつも私の作品をお買い上げ頂き
誠にありがとうございます！

はい、というわけで今回は、彼女の母と見せかけた叔母さんものでございました。
ネタバレになるので、ジャンルのとこに近親とか叔母とか書けませんでした。叔母もの嫌いな人ごめんなさい。

いや～しかし今回は一番苦しみました。
叔母設定もあんまり活かせてない気がしますし、何より展開が前作とほとんど同じような感じになって、自分の引き出しの無さに途中で制作を投げ出したくなりました。ホントにしんどかった～･･･。

それとページ数も過去最長になりました。これだけのページ数になると自分の場合、制作が長期間になってしまうので
次作は４０～５０ページくらいでリセットしたいなと考えてます。
まだな～んにも考えてませんが････。

とりあえずゆっくりお休みいただいて、またぼちぼち描き始めたいと思っております。気が向いたらまたお付き合いください。
それと、twitterやpixivなどお返事できなくてごめんなさい。
全部読んでます。感謝です！

皆様ご健勝にお過ごしください。
それではまた。

２０２２年９月３日　　ほーすている